

水道工事設計標準図

令和 7 年 7 月

広島市水道局

適用

この水道工事設計標準図は、水道工事において使用する標準的な弁室等についてまとめたもので、広島市土木工事設計標準図と併せて使用することとするが、適用にあたっては条件等に十分留意すること。

取扱い

この水道工事設計標準図及び広島市土木工事設計標準図による場合は、当該弁室等の略称を設計図書に記入することとし、当該弁室等の図面は原則として設計図書に添付しないこととする。

なお、消火栓室（75 mm）、ソフトシール仕切弁室（75 mm～400 mm）、アスファルト舗装復旧断面図及びコンクリート舗装復旧断面図については、設計図書への略称の記入も省略することとする。

・ 水道工事設計標準図の略称

水－標－○

水 － 水道局

標 － 水道工事設計標準図を示す

○ － 水道工事設計標準図の頁数を示す

・ 広島市土木工事設計標準図の略称

市－標（ ）－○（ ）

市 － 広島市

標（ ） － 広島市土木工事設計標準図を示す。（ ）内に道路編、下水道編等を明記すること。

○ － 広島市土木工事設計標準図の頁数を示す

（ ） － 規格を明記すること

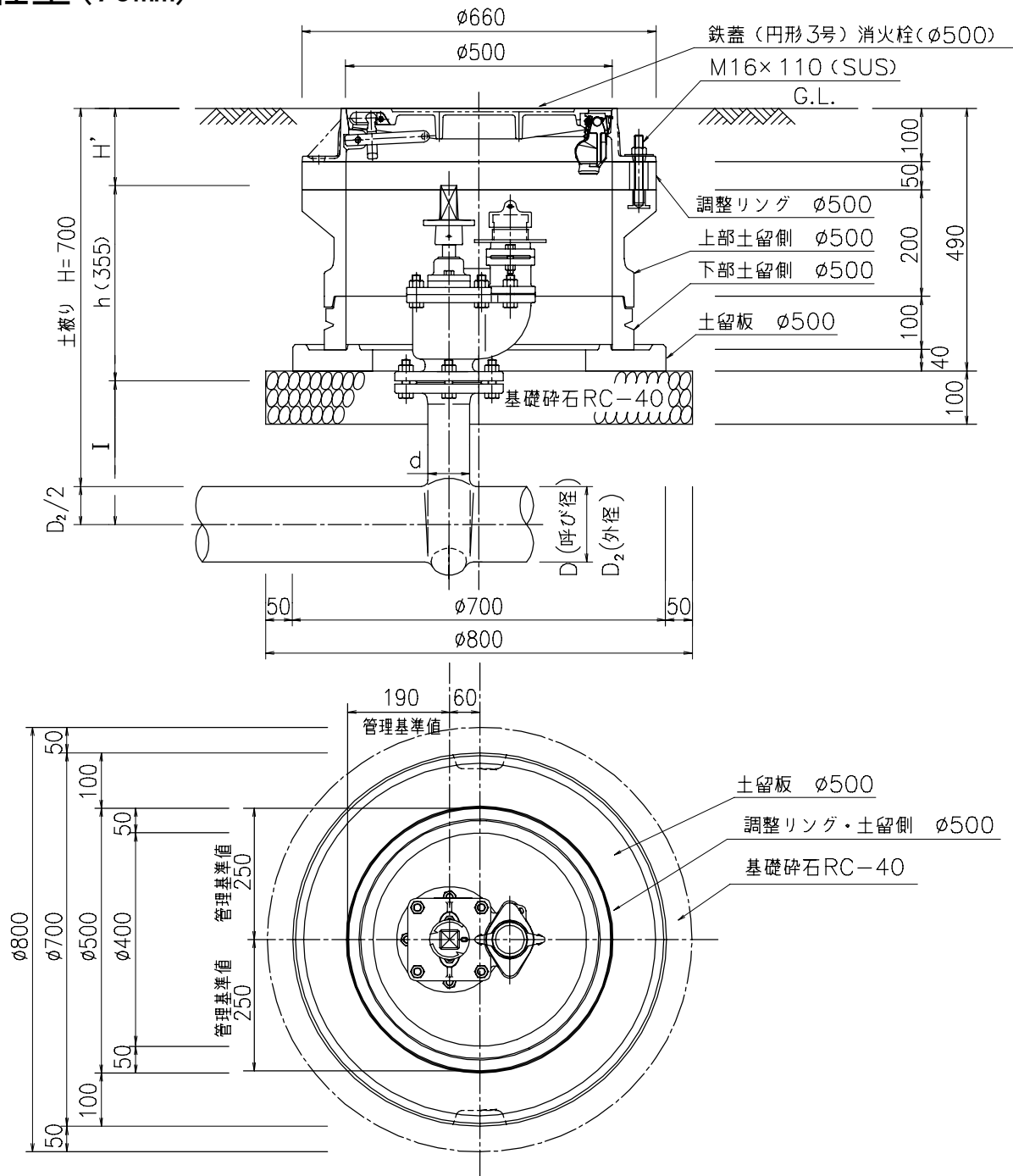
水道工事設計標準図

目 次

頁	名 称
1	消火栓室（75 mm）
2	補修弁付双口消火栓室（100 mm）300 mm～900 mm
3	補修弁付双口消火栓室（100 mm）900 mm～1,000 mm
4	空気弁付消火栓室（75 mm）
5	補修弁付空気弁付消火栓室（75 mm）300 mm～900 mm
6	補修弁付空気弁付消火栓室（75 mm）900 mm～1,000 mm
7	急速空気弁室（13 mm・20 mm・25 mm）
8	補修弁付急速空気弁室（25 mm）300 mm
9	補修弁付急速空気弁室（75 mm・100 mm・150 mm）400 mm～1,000 mm
10	補修弁付急速空気弁室（100 mm・150 mm）900 mm～1,000 mm
11-12	ソフトシール仕切弁室（75 mm～400 mm）
13	ゴムシート形バタフライ弁室（500 mm～700 mm）
14-15	ゴムシート形バタフライ弁室（800 mm～1,000 mm）
16	水抜栓
17	電気ハンドホール
18-20	アスファルト舗装復旧断面図
21	コンクリート舗装復旧断面図
22-24	境界杭、明示板

[illegible]

消火栓室 (75mm)

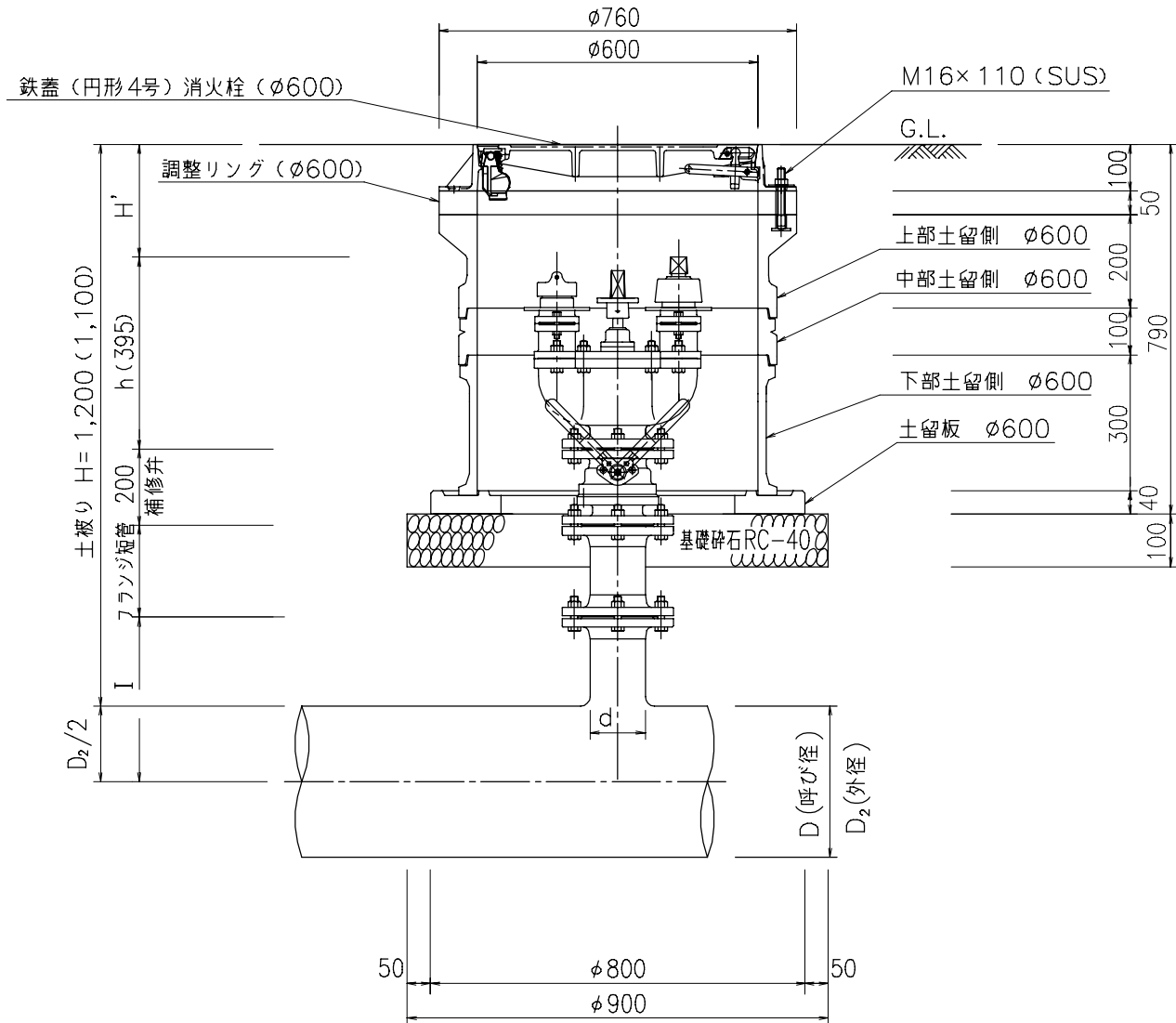


(重要) 消火栓の設置位置については、明示している管理基準値に基づくものとする。

記号 呼び径 $D \times d$	各部寸法			支給材料						その他 (10種別)
	$D_2/2$	I	H'	消火栓 $\phi 75$ (355H) (個)	鉄蓋 (円形 3号) 消火栓 $\phi 500$ (個)	調整リング $\phi 500$ (50H) (個)	上部土留側 $\phi 500$ (200H) (個)	下部土留側 $\phi 500$ (100H) (個)	土留板 $\phi 500$ (40H) (枚)	
75x75	46.5	250	142	1	1	1	1	1	1	5.00
100x75	59	250	154	1	1	1	1	1	1	5.00
150x75	84.5	280	150	1	1	1	1	1	1	5.00
200x75	110	300	155	1	1	1	1	1	1	5.00

- (注) 1. フランジ付T字管については、原則、G×形のうず巻式フランジ付T字管を使用する。
2. 消火栓鉄蓋の蝶番と消火栓口金は、同位置にならないよう設置すること。
3. 標準 (土被り) 以外の場合は、フランジ付T字管の変更 (うず巻式以外) 又は、フランジ短管等を使用するなどし、H'寸法が150mm程度となるよう検討すること。なお、フランジ短管L=100を使用する場合は、上下フランジ側にフランジ用ボルトナットM16×65 (SUS) を使用すること。
4. 本図面の消火栓は、承認品最大h寸法により作図したものである。
5. 消火栓h寸法について、JWWA規格では379mm以下としている。
6. 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

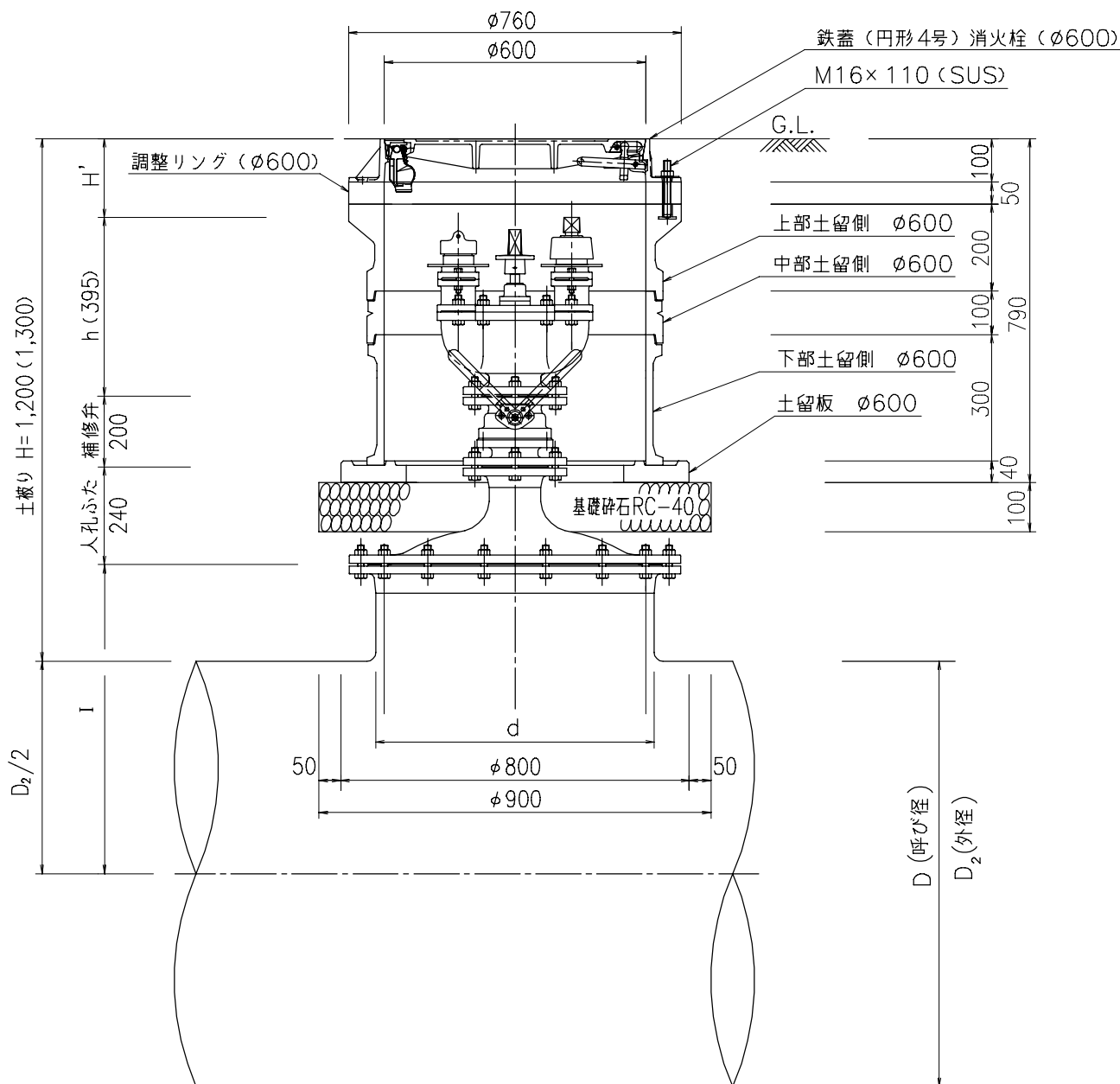
補修弁付双口消火栓室(100mm) 300mm～900mm



記 継 手 形 式 呼び径 D×d		各部寸法			支給材料						業者持材料						その他 (10ヶ所当り)
		D ₂ /2	I	H'	双口消火栓 φ100 (395H) (個)	補修弁 φ100 (200H) (個)	フランジ短管 (φ100)				鉄蓋 (円形4号) 消火栓 φ600 (個)	調整リング φ600 (50H) (個)	上部土留側 φ600 (200H) (個)	中部土留側 φ600 (100H) (個)	下部土留側 φ600 (300H) (個)	土留板 φ600 (40H) (枚)	基礎碎石 RC-40 (t=10cm) (m ²)
							L= 100 (個)	L= 150 (個)	L= 250 (個)	L= 300 (個)							
300x100	GX	161.4	300 (350)	216 216	1 1	1 1	- 1	- -	- -	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	6.40 6.40
400x100	GX	212.8	350	218	1	1	-	-	1	-	1	1	1	1	1	1	6.40
500x100	NS	264	400	219	1	1	-	-	1	-	1	1	1	1	1	1	6.40
600x100	NS	315.4	450	220	1	1	-	-	1	-	1	1	1	1	1	1	6.40
700x100	NS	366.5	480	242	1	1	-	-	1	-	1	1	1	1	1	1	6.40
800x100	NS	418	520	203	1	1	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	6.40
900x100	NS	469.5	590	235	1	1	-	-	1	-	1	1	1	1	1	1	6.40

- (注) 1. フランジ付T字管の分岐口径 (d) については、折損防止を図るため、必ずφ100とする。
2. φ300の土被りは、1,100とする。
3. φ300の () は、GX 形のうず巻式フランジ付T字管の I 寸法である。
4. 標準 (土被り) 以外の場合は、フランジ短管等を変更 (追加) するなどし、H' 寸法が200～250mm程度となるよう検討すること。なお、フランジ短管 L=100 を使用する場合は、上下フランジ共フランジ用ボルトナット M16×65 (SUS) を使用すること。
5. 本図面の双口消火栓は、承認品最大 h 寸法により作図したものである。
6. 本図面の補修弁高さは、フランジ規格が 7.5k 仕様のものである。なお、フランジ規格が 10k 及び 16k 仕様のものについては補修弁高さが異なることから、別途検討すること。
7. 本図面の単位は mm、縮尺はフリーとする。

補修并付双口消火栓室(100mm) 900mm~1,000mm

[illegible]

(注) 1. フランジ付T字管の I 寸法については、NS形による。

2. $\phi 1,000$ の十被りは、 $1,300$ とする。

3. $\phi 1, 100$ 以上については別途考慮すること。

4. 標準（土盛り）以外の場合は、フランジ短管等を使用するなどし、H'寸法が200mm程度となるよう検討すること。
なお、フランジ短管L=100を使用する場合は、上下フランジ共フランジ用ボルトナットM16×65（SUS）を使用すること。

5. 本図面の双口消火栓は、承認品最大h寸法により作図したものである。

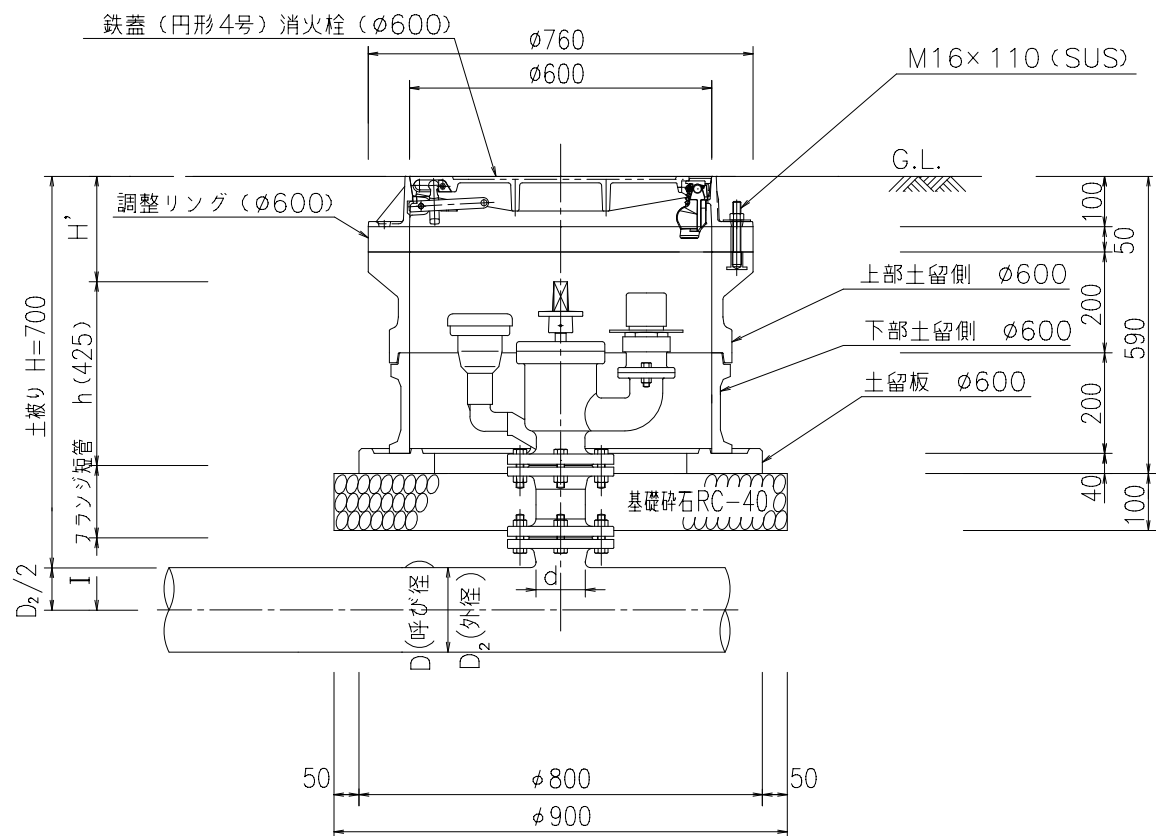
6. 本図面の補修弁高さは、フランジ規格が7.5k仕様のものである。なお、フランジ規格が10k及び16k仕様のものについては補修弁高さが異なることから、別途検討すること。

7. 人孔ふたのφ600に使用するフランジ用ボルトナットについては、M24×110（SUS）とする。

8. 本図面は、水圧テスト（内面）を実施するに当たり、機材の出し入れ及び維持管理のため管内への出入りを考慮したものである。

9. 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

空気弁付消火栓室 (75mm)

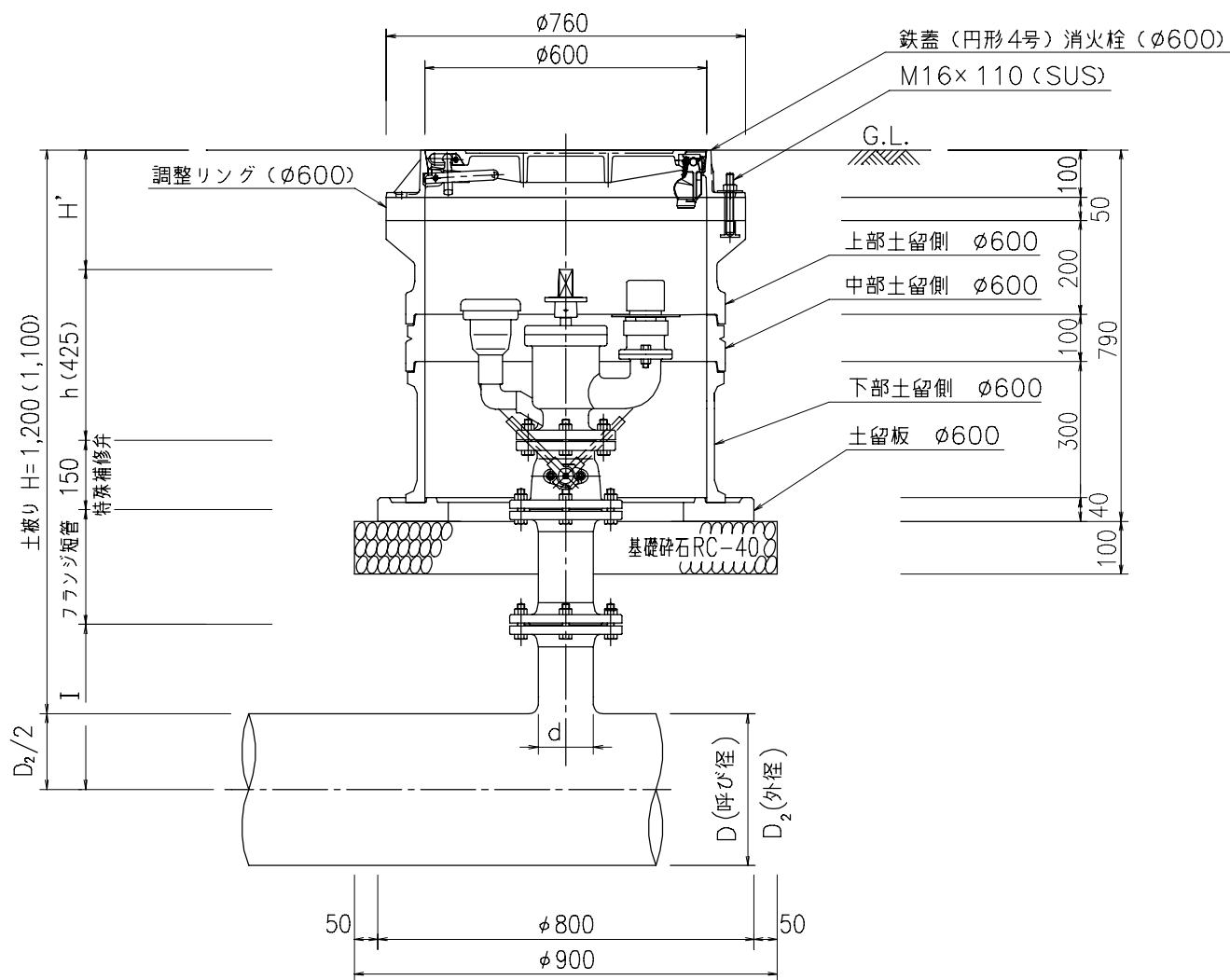


(注) 上図については、浅層埋設形フランジ付T字管を使用し、空気弁付消火栓は、通常型の承認品最大高さを
を使用した場合のものである。

記 号 呼び径 D×d	各部寸法						支給材料		業者持材料						その他 (10か所当り)
	D ₂ /2	フランジ 呼び圧力	フランジ付 T字管形式	I	空気弁付 消火栓φ75 h ()は浅層埋設型	H'	空気弁付 消火栓φ75 (個) ()は浅層埋設型	フランジ短管 φ75 (100H) (個)	空気弁付 消火栓φ75 (個) ()は浅層埋設型	鉄蓋 (円形4号) 消火栓 φ600 (個)	調整リング φ600 (50H) (個)	上部土留側 φ600 (200H) (個)	下部土留側 φ600 (200H) (個)	土留板 φ600 (40H) (枚)	基礎碎石 RC-40 (t=10cm) (m ²)
75×75	46.5	7.5K	浅層埋設形	105	425	117	1	1	—	1	1	1	1	1	6.40
		10 K	通常形	200	(279)	168	—	1	(1)	1	1	1	1	1	6.40
100×75	59	7.5K	浅層埋設形	120	425	114	1	1	—	1	1	1	1	1	6.40
		10 K	通常形	200	(279)	180	—	1	(1)	1	1	1	1	1	6.40
150×75	84.5	7.5K	浅層埋設形	170	(283)	232	(1)	1	—	1	1	1	1	1	6.40
		10 K	通常形	250	(279)	156	—	1	(1)	1	1	1	1	1	6.40
200×75	110	7.5K	浅層埋設形	200	(283)	227	(1)	1	—	1	1	1	1	1	6.40
		10 K	通常形	250	(279)	181	—	1	(1)	1	1	1	1	1	6.40

- (注) 1. フランジ付T字管のI寸法については、G×形による。
2. 標準 (土被り) 以外の場合は、フランジ付T字管の変更又は、フランジ短管を変更 (追加) するなどし、H' 寸法が200mm程度となるよう検討すること。なお、フランジ短管L=100を使用する場合は、上下フランジ共フランジ用ボルトナットM16×65 (SUS) を使用すること。
3. 本図面の空気弁付消火栓は、承認品最大h寸法により作図したものである。
4. 空気弁付消火栓のh寸法について、承認品には、通常型と浅層埋設型があることから、施工に当たって注意すること。
5. 16Kについては別途考慮すること。
6. 本図面の単位はmmで、縮尺はフリーとする。

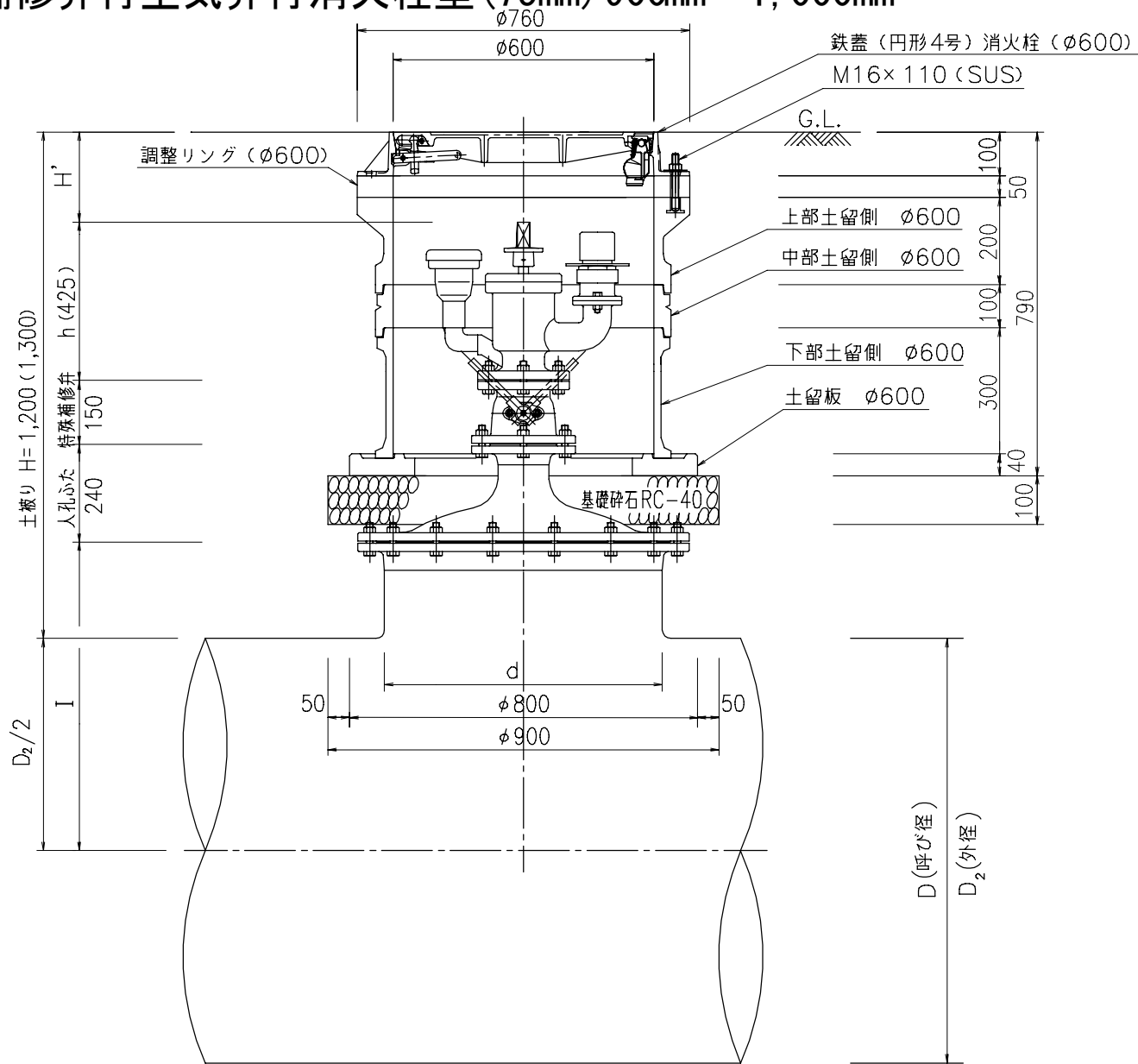
補修弁付空気弁付消火栓室 (75mm) 300mm～900mm



記 号 継 手 形 式	各部寸法			支給材料					業者持材料						その他 (10ヶ所当り)
	D ₂ /2	I	H'	空気弁付 消火栓φ75 (425H) (個)	特殊補修弁 φ100×φ75 (150H) (個)	フランジ短管 (φ100)			鉄蓋 (円形4号) 消火栓 φ600 (個)	調整リング φ600 (50H) (個)	上部土留側 φ600 (200H) (個)	中部土留側 φ600 (100H) (個)	下部土留側 φ600 (300H) (個)	土留板 φ600 (40H) (枚)	基礎碎石 RC-40 (t=10cm) (m ²)
300x100	GX	161.4	300	186	1	1	-	1	-	1	1	1	1	1	6.40
400x100	GX	212.8	350	188	1	1	-	-	1	1	1	1	1	1	6.40
500x100	NS	264	400	189	1	1	-	-	1	1	1	1	1	1	6.40
600x100	NS	315.4	450	190	1	1	-	-	1	1	1	1	1	1	6.40
700x100	NS	366.5	480	212	1	1	-	-	1	1	1	1	1	1	6.40
800x100	NS	418	520	223	1	1	-	-	1	1	1	1	1	1	6.40
900x100	NS	469.5	590	205	1	1	-	-	1	1	1	1	1	1	6.40

- (注) 1. フランジ付T字管の分岐口径 (d) については、折損防止を図るため、必ずφ100とする。
2. φ300の土被りは、1,100とする。
3. 特殊補修弁100×75 (φ75側) を使用する場合は、フランジ用ボルトナットM16×65 (SUS) を使用すること。
4. 標準 (土被り) 以外の場合は、フランジ短管等を変更 (追加) するなどし、H'寸法が200mm程度となるよう検討すること。
なお、フランジ短管L=100を使用する場合は、上下フランジ共フランジ用ボルトナットM16×65 (SUS) を使用すること。
5. 本図面の空気弁付消火栓は、承認品最大h寸法により作図したものである。
6. 空気弁付消火栓のh寸法について、承認品には、通常型と浅層埋設型があることから、施工に当たって注意すること。
7. 10Kの特殊補修弁及び空気弁付消火栓を使用する場合、メーカーによってはフランジ部に植え込みボルトがあり、他のメーカーのものは接合できないため、同じメーカーとすること。16Kについては別途考慮すること。
8. 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

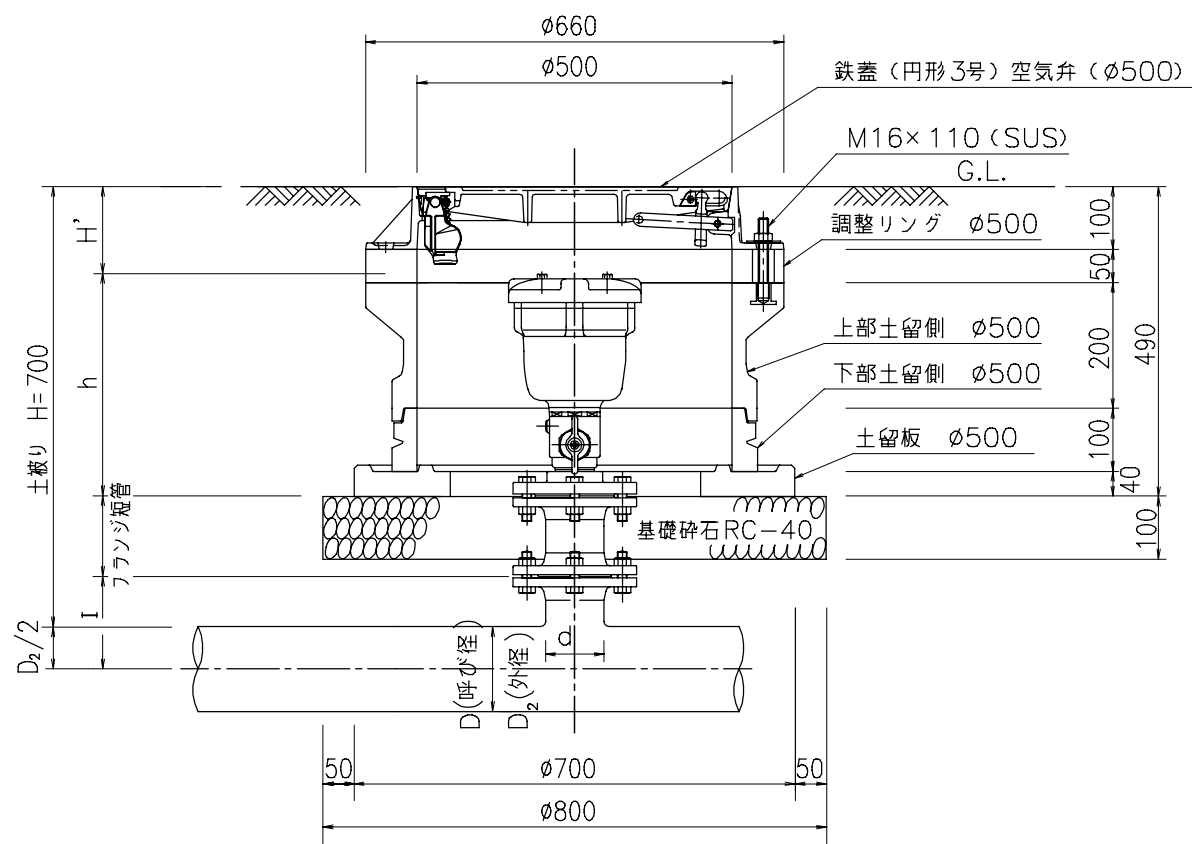
補修弁付空気弁付消火栓室 (75mm) 900mm～1,000mm



記 号 呼び径 D $\times$ d	各部寸法			支給材料			業者持材料						その他 (10か所当り)
	D ₂ /2	I	H'	空気弁付 消火栓 $\phi 75$ (425H) (個)	特殊補修弁 $\phi 100 \times \phi 75$ (150H) (個)	人孔ふた $\phi 600 \times \phi 100$ (240H) (個)	鉄蓋 (円形4号) 消火栓 $\phi 600$ (個)	調整リング $\phi 600$ (50H) (個)	上部土留側 $\phi 600$ (200H) (個)	中部土留側 $\phi 600$ (100H) (個)	下部土留側 $\phi 600$ (300H) (個)	土留板 $\phi 600$ (40H) (個)	基礎碎石 RC-40 ($t=10\text{cm}$) (m^2)
900 $\times$ 600	469.5	690	165	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6.40
1,000 $\times$ 600	520.5	770	236	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6.40

- (注) 1. フランジ付T字管の I 寸法については、NS形による。
2. $\phi 1,000$ の土被りは、1,300とする。
3. $\phi 1,100$ 以上については、別途考慮すること。
4. 特殊補修弁 100×75 ($\phi 75$ 側) を使用する場合は、フランジ用ボルトナット M16 $\times$ 65 (SUS) を使用すること。
5. 標準 (土被り) 以外の場合は、フランジ短管等を使用するなどし、 H' 寸法が200mm程度となるよう検討すること。
なお、フランジ短管 $L=100$ を使用する場合は、上下フランジ共フランジ用ボルトナット M16 $\times$ 65 (SUS) を使用すること。
6. 本図面の空気弁付消火栓は、承認品最大 h 寸法により作図したものである。
7. 空気弁付消火栓の h 寸法について、承認品には、通常型と浅層埋設型があることから、施工に当たって注意すること。
8. 人孔ふたの $\phi 600$ に使用するフランジ用ボルトナットについては、M24 $\times$ 110 (SUS) とする。
9. 本図面は、水压テスト (内面) を実施するに当たり、機材の出し入れ及び維持管理のため管内への出入りを考慮したものである。
10. 10K の特殊補修弁及び空気弁付消火栓を使用する場合、メーカーによってはフランジ部に植え込みボルトがあり、他のメーカーのものは接合できないため、同じメーカーとすること。16K については別途考慮すること。
11. 本図面の単位は mm、縮尺はフリーとする。

急速空気弁室（13mm・20mm・25mm）

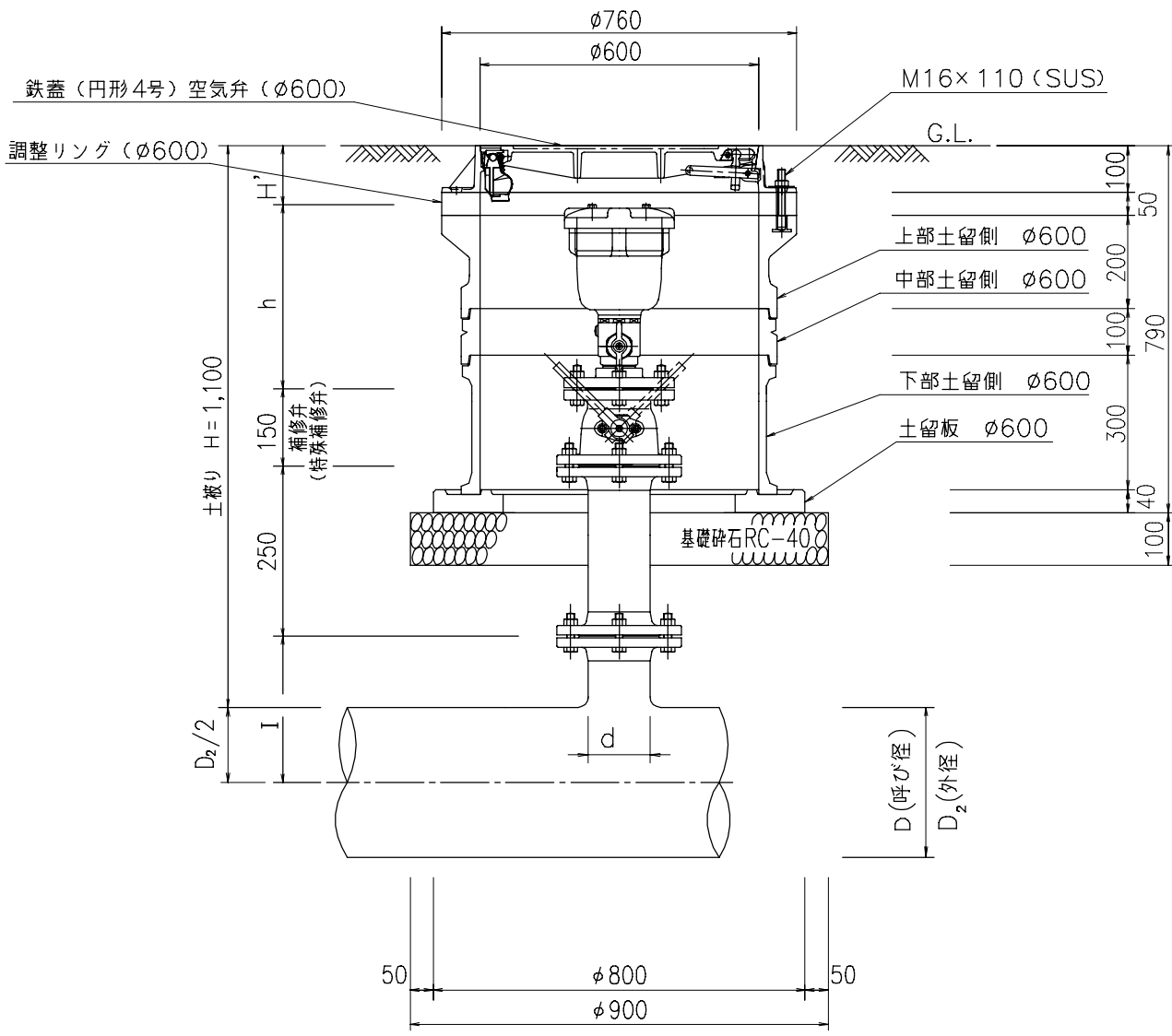


（注） 上図については、浅層埋設形フランジ付T字管を使用し、急速空気弁は、通常型の承認品最大高さを
使用した場合のものである。

記 号 呼び径 D×d	各部寸法							支給材料								その他(10ヶ所当たり)
	D ₂ /2	フランジ 呼び圧力	フランジ付 T字管形式	I	急速空気弁 ()は浅層埋設型		H'	急速空気弁 (乙) (ø13~25) (個) ()は浅層埋設型	フランジ短管 (ø75) L=100 (個)	鉄蓋(円形3号) 空気弁 ø500 (個)	調整リング ø500 (50H) (個)	上部土留側 ø500 (200H) (個)	下部土留側 ø500 (100H) (個)	土留板 ø500 (40H) (個)	基礎碎石 RC-40 (t=10cm) (m ²)	
					呼び径	h										
75×75	46.5	7.5K	浅層埋設形	105	13・20	345	197	1	1	1	1	1	1	1	5.00	
		10K・16K	通常形	200		(240)	207	(1)	1	1	1	1	1	1	5.00	
100×75	59	7.5K	浅層埋設形	120	13・20	345	194	1	1	1	1	1	1	1	5.00	
		10K・16K	通常形	200		(240)	219	(1)	1	1	1	1	1	1	5.00	
150×75	84.5	7.5K	浅層埋設形	170	25	358	157	1	1	1	1	1	1	1	5.00	
		10K・16K	通常形	250		(266)	169	(1)	1	1	1	1	1	1	5.00	
200×75	110	7.5K	浅層埋設形	200	25	358	152	1	1	1	1	1	1	1	5.00	
		10K・16K	通常形	250		(266)	194	(1)	1	1	1	1	1	1	5.00	

- （注） 1. フランジ付T字管のI寸法については、G×形による。
2. 標準（土被り）以外の場合は、フランジ短管等を変更（追加）するなどし、H'寸法が200mm程度となるよう検討すること。なお、フランジ短管L=100を使用する場合は、上下フランジ共フランジ用ボルトナットM16×65（SUS）を使用すること。
3. 本図面の急速空気弁は、承認品最大h寸法により作図したものである。
4. 急速空気弁のh寸法について、承認品には、通常型と浅層埋設型があることから、施工に当たって注意すること。
5. 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

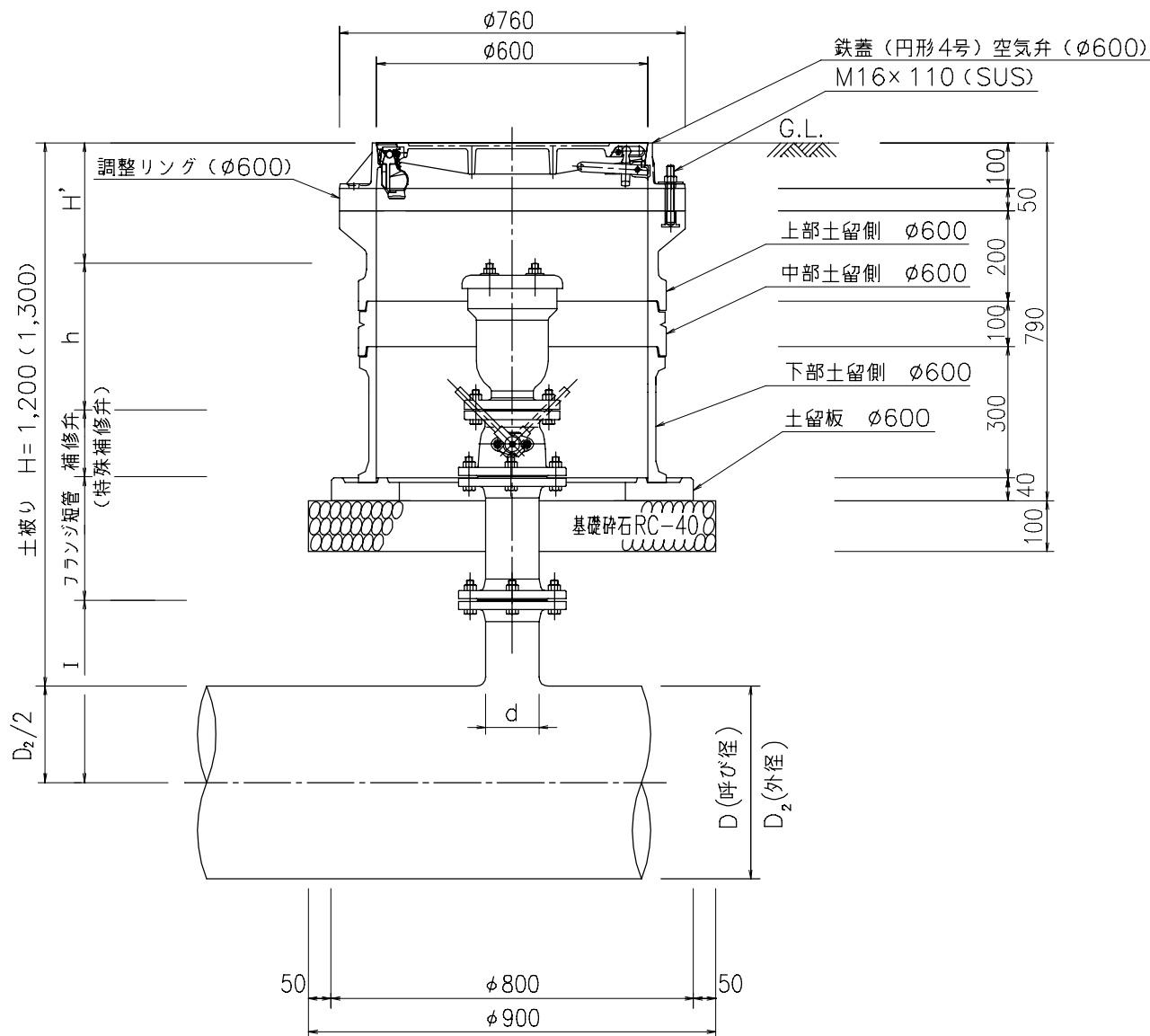
補修弁付急速空気弁室 (25mm) 300mm



記 号 呼び径 D×d	各部寸法				支給材料			業者持材料						その他(10ヶ所当り)	
	D ₂ /2	I	急速空気弁		H'	急速空気弁 (乙) (φ25) (個)	特殊補修弁 φ100×φ75 (150H) (個)	フランジ短管 (φ100) L=250 (個)	鉄蓋(円形4号) 空気弁 φ600 (個)	調整リング φ600 (50H) (個)	上部土留側 φ600 (200H) (個)	中部土留側 φ600 (100H) (個)	下部土留側 φ600 (300H) (個)	土留板 φ600 (40H) (枚)	基礎砕石 RC-40 (t=10cm) (m ²)
			呼び径	h											
300×100	161.4	300	25	358	203	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6.40

- (注) 1. フランジ付T字管の分岐口径 (d) については、折損防止を図るため、必ずφ100とする。
2. フランジ付T字管の I 寸法については、GX 形による。
3. 特殊補修弁100×75 (φ75側) を使用する場合は、フランジ用ボルトナットM16×65 (SUS) を使用すること。
4. 標準 (土被り) 以外の場合は、フランジ短管を変更 (追加) するなどし、H' 寸法が200mm程度となるよう検討すること。なお、フランジ短管L=100を使用する場合は、上下フランジ共フランジ用ボルトナットM16×65 (SUS) を使用すること。
5. 本図面の急速空気弁は、承認品最大h寸法により作図したものである。
6. 16Kフランジ仕様の場合は、通常の補修弁と急速空気弁φ100の組み合わせとする。
7. 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

補修弁付急速空気弁室 (75mm・100mm・150mm) 400mm～1,000mm

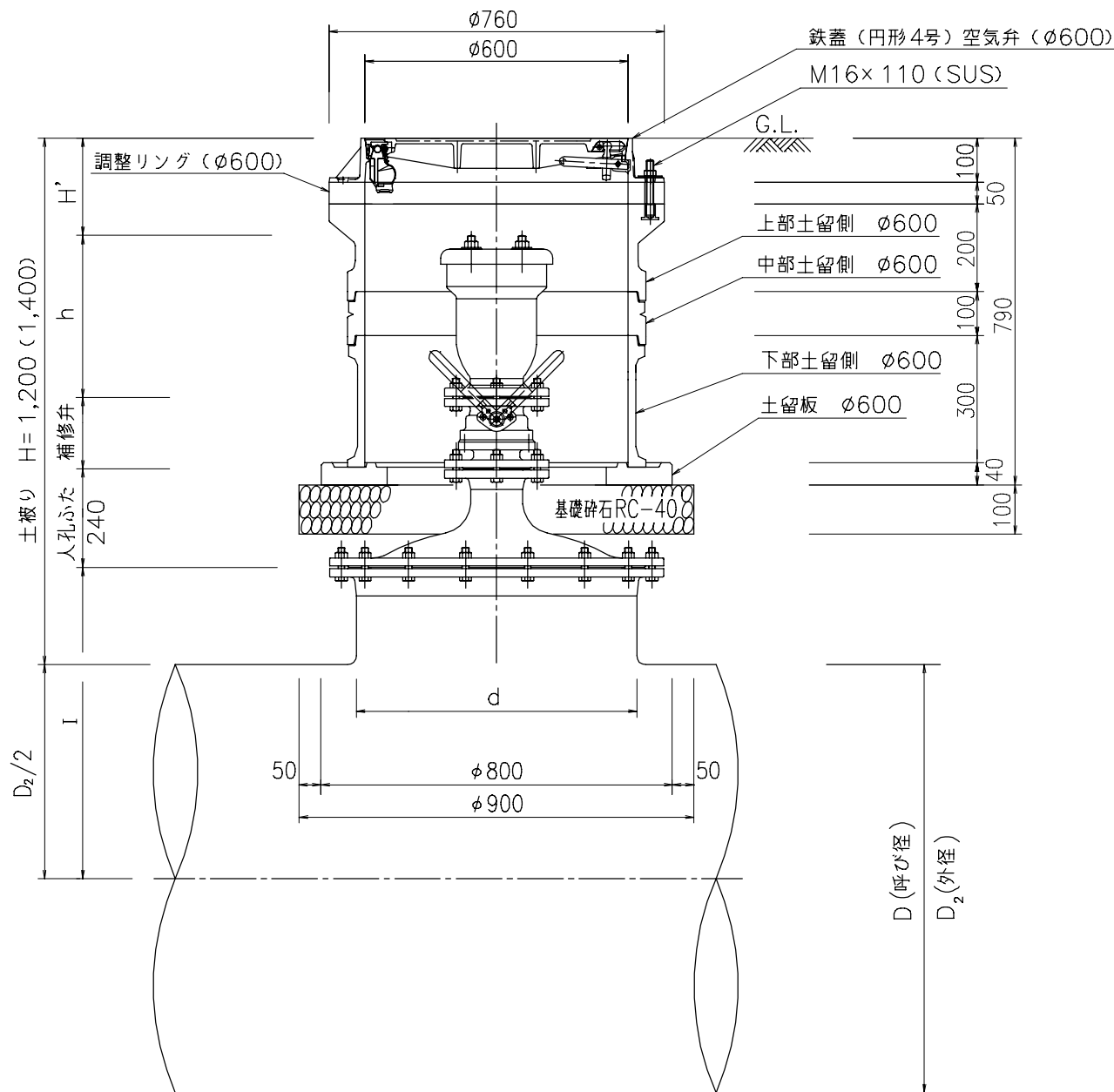


(注) 上図については、特殊補修弁を使用し、急速空気弁は、通常型の承認品最大高さを使用した場合のものである。

記 号 継手 形式 呼び径 D×d	各部寸法					支給材料								業者持材料							基礎碎石 RC-40 (t=10cm) (m ²)
	D ₂ /2	I	急速空気弁		H'	急速空気弁 (乙) φ75×φ150 (個)	特殊補修弁 φ100×φ75 (150H) (個)	補修弁		フランジ短管			鉄蓋(円形4号) 空気弁 φ600 (個)	調整リング φ600 (50H) (個)	上部土留側 φ600 (200H) (個)	中部土留側 φ600 (100H) (個)	下部土留側 φ600 (300H) (個)	土留板 φ600 (枚)			
			呼び径	h				φ100 (200H) (個)	φ150 (300H) (個)	φ100 L=250 (個)	φ150 L=300 (個)										
400×100	GX	212.8	350	75	364	249	1	1	-	-	-	1	-	1	1	1	1	1	6.40		
500×100	NS	264	400	75	364	250	1	1	-	-	-	1	-	1	1	1	1	1	6.40		
600×100	NS	315.4	450	75	364	251	1	1	-	-	-	1	-	1	1	1	1	1	6.40		
700×100	NS	366.5	480	100	368	269	1	-	1	-	1	-	-	1	1	1	1	1	6.40		
800×100	NS	418	520	100	368	280	1	-	1	-	1	-	-	1	1	1	1	1	6.40		
900×100	NS	469.5	590	100	368	262	1	-	1	-	1	-	-	1	1	1	1	1	6.40		
1,000×150	NS	520.5	640	150	465	166	1	-	-	1	-	-	1	1	1	1	1	1	6.40		

- (注) 1. フランジ付T字管の分岐口径 (d) については、折損防止を図るため、必ずφ100以上とする。
2. φ1,000の土被りは、1,300とする。
3. φ1,100以上については、別途考慮すること。
4. 特殊補修弁100×75 (φ75側) を使用する場合は、フランジ用ボルトナットM16×65 (SUS) を使用すること。
5. 標準 (土被り) 以外の場合は、フランジ短管等を変更 (追加) するなどし、H'寸法が200mm程度となるよう検討すること。なお、フランジ短管L=100を使用する場合は、上下フランジ共フランジ用ボルトナットM16×65 (SUS) を使用すること。
6. 本図面の急速空気弁は、承認品最大h寸法により作図したものである。
7. 本図面の補修弁高さは、フランジ規格が7.5k仕様のものである。なお、フランジ規格が10k及び16k仕様のものについては補修弁高さが異なることから、別途検討すること。
8. φ1,000に使用する補修弁φ150の高さは、メーカーごとに異なることから、施工に当たっては上記5に準じ調整すること。
9. φ400～φ600において、16Kフランジ仕様の場合は、通常の補修弁と急速空気弁φ100の組み合わせとする。
10. 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

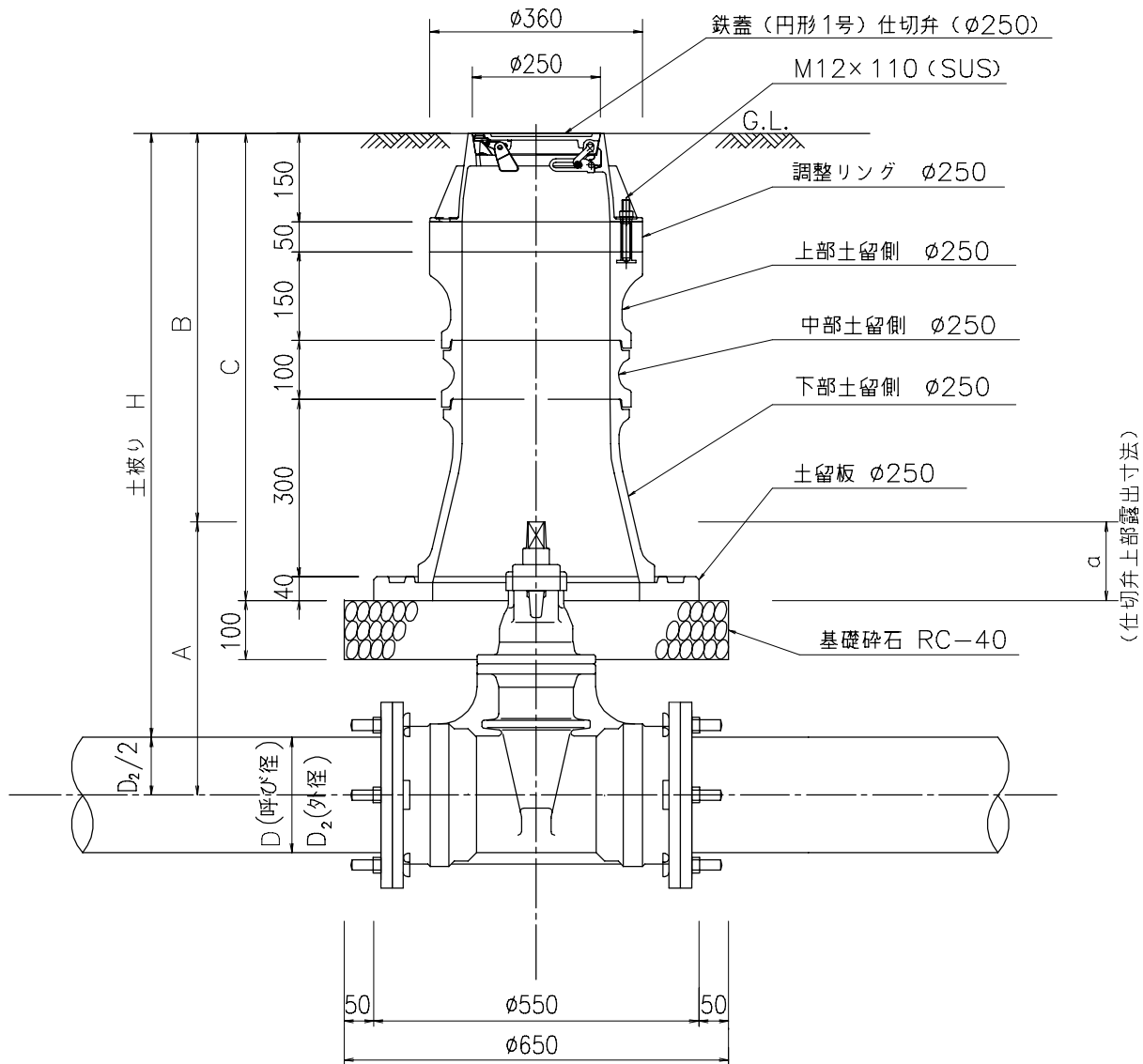
補修弁付急速空気弁室（100・150mm） 900mm～1,000mm



記 号 呼び径 D×d	各部寸法					支給材料					業者持材料						その他(10ヶ所相当)	
	D ₂ /2	I	急速空気弁		H'	急速空気弁 φ100~φ150 (個)	補修弁		人孔ふた(240H)		鉄蓋(円形4号) 空気弁 φ600 (個)	調整リング φ600 (50H) (個)	上部土留側 φ600 (200H) (個)	中部土留側 φ600 (100H) (個)	下部土留側 φ600 (300H) (個)	土留板 φ600 (40H) (個)		基礎砕石 RC-40 (t=10cm) (m ²)
			呼び径	h			φ100 (200H) (個)	φ150 (300H) (個)	φ600×φ100 (個)	φ600×φ150 (個)								
900×600	469.5	590	100	368	172	1	1	-	1	-	1	1	1	1	1	1	6.40	
1,000×600	520.5	770	150	465	146	1	-	1	-	1	1	1	1	1	1	1	6.40	

- (注) 1. フランジ付T字管の I 寸法については、NS形による。
2. φ1,000については、標準土被りであるH=1,300では急速空気弁と鉄蓋が干渉するため、H≥1,400の場合に人孔ふたを使用して設置できることとする。
3. φ1,100以上については、別途考慮すること。
4. 標準(土被り)以外の場合は、フランジ短管等を使用するなどし、H'寸法が200mm程度となるよう検討すること。なお、フランジ短管L=100を使用する場合は、上下フランジ共フランジ用ボルトナットM16×65(SUS)を使用すること。
5. 本図面の急速空気弁は、承認品最大h寸法により作図したものである。
6. 本図面の補修弁高さは、フランジ規格が7.5k仕様のものである。なお、フランジ規格が10k及び16k仕様のものについては補修弁高さが異なることから、別途検討すること。
7. φ1,000に使用する補修弁φ150の高さは、メーカーごとに異なることから、施工に当たっては上記4に準じ調整すること。
8. 人孔ふたのφ600に使用するフランジ用ボルトナットについては、M24×110(SUS)とする。
9. 本図面は、水压テスト(内面)を実施するに当たり、機材の出し入れ及び維持管理のため管内への出入りを考慮したものである。
10. 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

ソフトシール仕切弁室（75mm～400mm）1



(注) 上図については、各材料の使用状況を示した図である。

呼び径D 継手形式 記号		各部寸法						支給材料									その他(10か所当り)
		D ₂ /2	H (土盛り)	A	B	C	仕切弁上部 露出寸法 a	鉄蓋 (円形1号) 仕切弁 (φ250) (個)	仕切弁 調整リング φ250 (50H) (個)	仕切弁 上部土留側 φ250 (150H) (個)	仕切弁 下部土留側 φ250 (300H) (個)	仕切弁 上下部土留側 φ250 (150H) (個)	仕切弁 上下部土留側 φ250 (300H) (個)	仕切弁 土留板 φ250 (40H) (枚)	仕切弁 継足金物 L=300 (本)	基礎碎石 RC-40 (t=10cm) (m ²)	
75	フランジ・GX	46.5	700	330	417	540	123	1	1	-	-	-	1	1	-	3.30	
100	フランジ・GX	59	700	365	394	540	146	1	1	-	-	-	1	1	-	3.30	
150	フランジ・GX	84.5	700	455	330	540	210	1	1	-	-	-	1	1	-	3.30	
200	フランジ・GX	110	700	540	270	390	120	1	1	-	-	1	-	1	-	3.30	
300	フランジ・GX	161.4	1,100	740	521	690	169	1	1	1	1	-	-	1	1	3.30	
400	GX	212.8	1,200	1045	368	540	172	1	1	-	-	-	1	1	-	3.30	

- (注) 1. 弁台コンクリート及び管防護コンクリートは必要に応じて別途算出すること。
2. 標準(土被り)以外の場合は、中部土留側・調整リング等を含め、土留組み合わせを変更するなどし、aの弁室内仕切弁上部露出高さ(150mm程度)を確保するよう検討すること。
3. B寸法が500mm以上となる場合は、継足金物の使用を検討すること。
4. 本図面は標準的な弁寸法によるものであり、メーカーごとに寸法が異なることから、施工に当たっては上記2・3に準じ調整すること。
5. 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

ソフトシール仕切弁室（75mm～400mm）2

ソフトシール仕切弁室土被り別土留表 75mm～150（200）mm

※口径200mmは（ ）数値

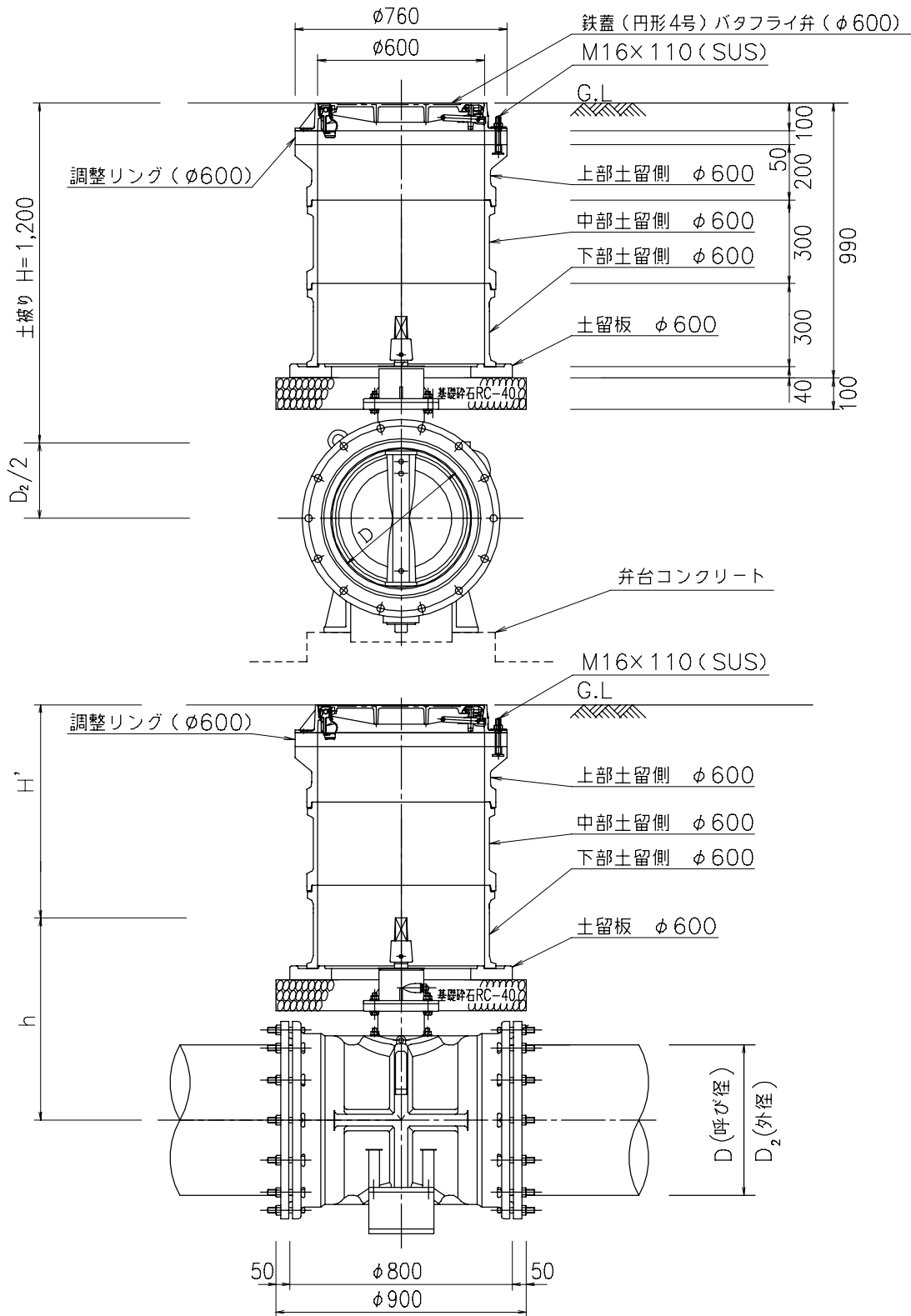
土留種類		土被りH（m）										
		0.5≦H<0.6	0.6≦H<0.7	0.7≦H<0.8	0.8≦H<0.9	0.9≦H<1.0	1.0≦H<1.1	1.1≦H<1.2	1.2≦H<1.3	1.3≦H<1.4	1.4≦H<1.5	1.5≦H<1.6
調整リング	50H		1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）
上部土留側	150H				1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）
上下部土留側	150H	1（0）	1（1）	0（1）								
上下部土留側	300H			1（0）								
中部土留側	100H						0（1）	1（0）				
中部土留側	150H					1（0）	1（0）	1（0）	1（0）	1（0）	1（0）	1（0）
中部土留側	200H							0（1）	1（0）	0（2）	2（1）	1（0）
中部土留側	300H								0（1）	1（0）	0（1）	1（2）
下部土留側	200H				0（1）	1（0）						
下部土留側	300H				1（0）	0（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）
土留板	40H	1（0）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）
C		340 （ - ）	390 (390)	540 (390)	690 (590)	740 (690)	840 (790)	940 (890)	1040 (990)	1140 (1090)	1240 (1190)	1340 (1290)
仕切弁上部 露出寸法α	75mm	123	73	123	173	123	123	123	123	123	123	123
	100mm	146	96	146	196	146	146	146	146	146	146	146
	150mm	210	160	210	260	210	210	210	210	210	210	210
	200mm	-	220	120	220	220	220	220	220	220	220	220
B	75mm	217	317	417	517	617	717	817	917	1017	1117	1217
	100mm	194	294	394	494	594	694	794	894	994	1094	1194
	150mm	130	230	330	430	530	630	730	830	930	1030	1130
	200mm	-	170	270	370	470	570	670	770	870	970	1070
継足金物L	75mm	-	-	-	300	300	300	300	500	700	700	1000
	100mm	-	-	-	-	300	300	300	500	500	700	700
	150mm	-	-	-	-	300	300	300	500	500	700	700
	200mm	-	-	-	-	-	300	300	500	500	500	700

ソフトシール仕切弁室土被り別土留表 300mm～（400）mm

※口径400mmは（ ）数値

土留種類		土被りH（m）										
		0.7≦H<0.8	0.8≦H<0.9	0.9≦H<1.0	1.0≦H<1.1	1.1≦H<1.2	1.2≦H<1.3	1.3≦H<1.4	1.4≦H<1.5	1.5≦H<1.6	1.6≦H<1.7	1.7≦H<1.8
調整リング	50H		1（0）	1（0）	1（0）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）
上部土留側	150H				1（0）	1（0）	1（0）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）
上下部土留側	150H	1（0）	1（0）		0（1）	0（1）						
上下部土留側	300H			1（0）			0（1）					
中部土留側	100H						1（0）		0（1）		0（1）	
中部土留側	150H									0（1）	0（1）	0（1）
中部土留側	200H							1（0）		2（0）	1（0）	0（1）
中部土留側	300H								1（0）		1（0）	2（0）
下部土留側	200H				1（0）							
下部土留側	300H					1（0）	1（0）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）
土留板	40H	1（0）	1（0）	1（0）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）	1（1）
C		340 （ - ）	390 （ - ）	540 （ - ）	590 (340)	690 (390)	790 (540)	890 (690)	990 (790)	1090 (840)	1190 (940)	1290 (1040)
仕切弁上部 露出寸法α	300mm	219	169	219	169	169	169	169	169	169	169	169
	400mm	-	-	-	172	122	172	222	222	172	172	172
B	300mm	121	221	321	421	521	621	721	821	921	1021	1121
	400mm	-	-	-	168	268	368	468	568	668	768	868
継足金物L	300mm	-	-	-	-	300	300	300	500	500	700	700
	400mm	-	-	-	-	-	-	-	300	300	300	500

ゴムシート形バタフライ弁室 (500mm～700mm)

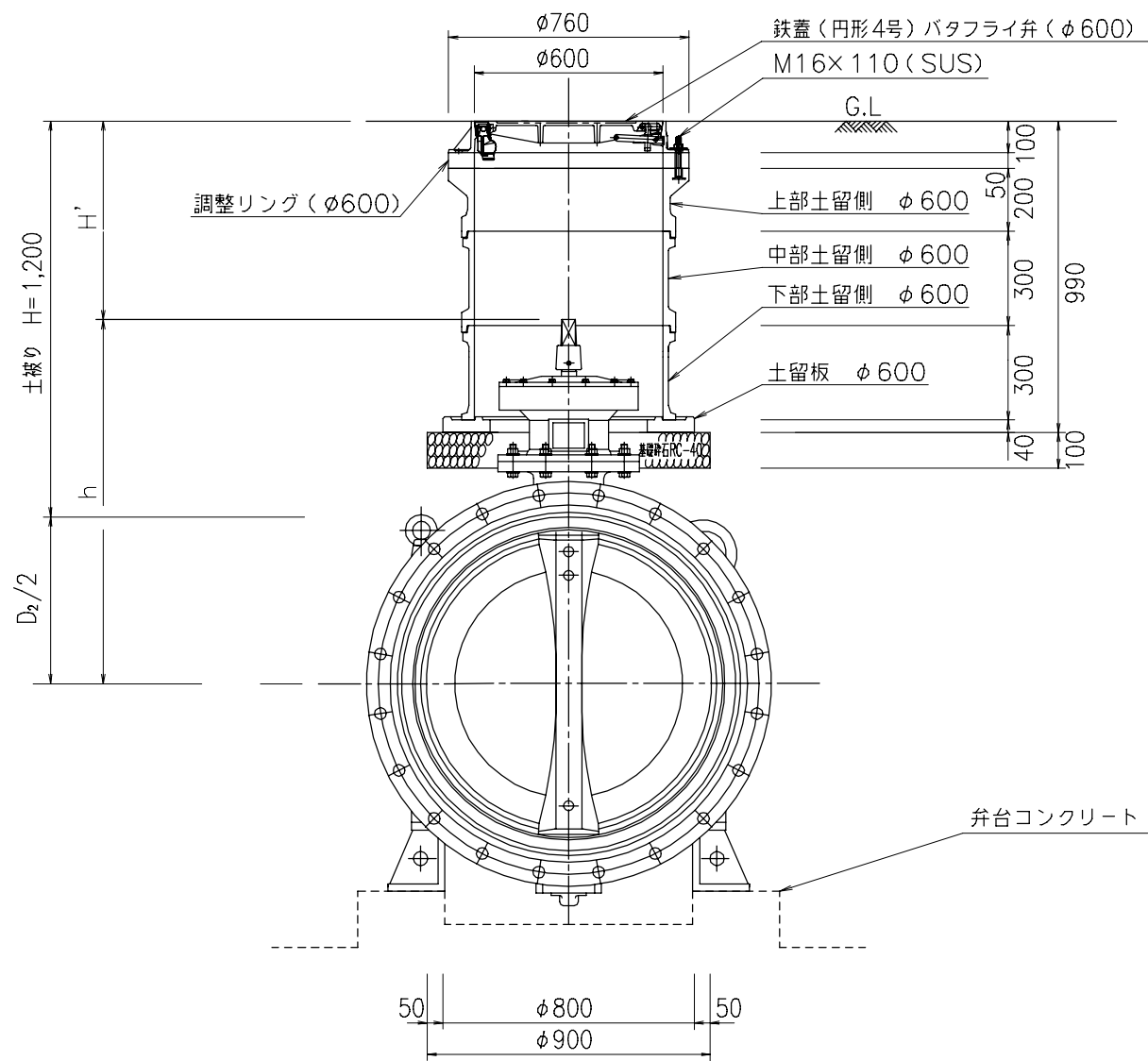


記 号 呼び径D	各部寸法			支給材料		業者持材料							その他(10ヶ所当り)
	D ₂ /2	h	H'	バタフライ弁 (NS耐震) (個)	仕切弁 継足金物 L=300 (本)	鉄蓋(円形4号) バタフライ弁 φ600 (個)	調整リング φ600 (50H) (個)	上部土留側 φ600 (200H) (個)	中部土留側 φ600 (300H) (個)	下部土留側 φ600 (300H) (個)	土留板 φ600 (40H) (枚)	基礎砕石 RC-40 (t=10cm) (m ²)	
500	264	650	814	1	1	1	1	1	1	1	1	6.40	
600	315.4	790	725	1	1	1	1	1	1	1	1	6.40	
700	366.5	849	718	1	1	1	1	1	1	1	1	6.40	

- (注) 1. 弁台コンクリート及び管防護コンクリートは必要に応じて別途算出すること。
2. 標準(土被り)以外の場合は、中部土留側・調整リング等を含め、土留組み合わせを変更することを検討すること。
3. 本図面は標準的なバタフライ弁h寸法により作図したものであり、メーカーごとにh寸法が異なること、また、ギア付きやセンターがずれたものがあるため、施工に当たっては上記2に準じ適宜対応すること。
4. 土被りが深く、維持管理上足掛金物を設置する必要がある場合は、別途考慮すること。
5. 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

ゴムシート形バタフライ弁室（800mm～1,000mm） 1

800mm～900mm

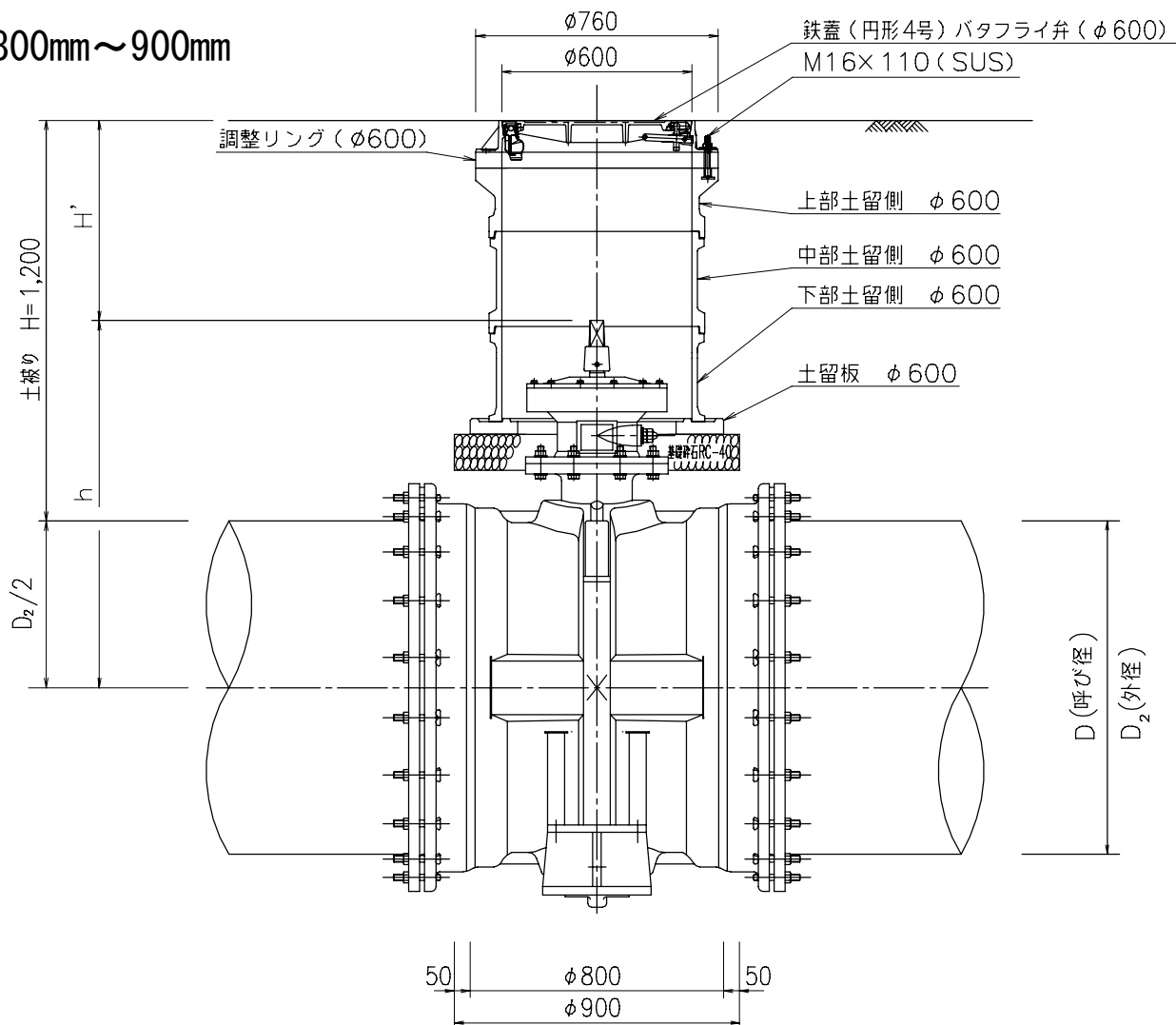


記 号 呼び径D	各部寸法			支給材料		業者持材料						その他(10ヶ所当り)
	D ₂ /2	h	H'	バタフライ弁 (NS耐震) (個)	仕切弁 継足金物 L=300 (本)	鉄蓋 (円形4号) バタフライ弁 φ600 (個)	調整リング φ600 (50H) (個)	上部土留側 φ600 (200H) (個)	中部土留側 φ600 (300H) (個)	下部土留側 φ600 (300H) (個)	土留板 φ600 (40H) (枚)	基礎碎石 RC-40 (t=10cm) (m ²)
800	418	949	669	1	1	1	1	1	1	1	1	6.40
900	469.5	1,018	652	1	1	1	1	1	1	1	1	6.40
1,000	520.5	1,173	648	1	1	1	1	1	1	1	1	6.40

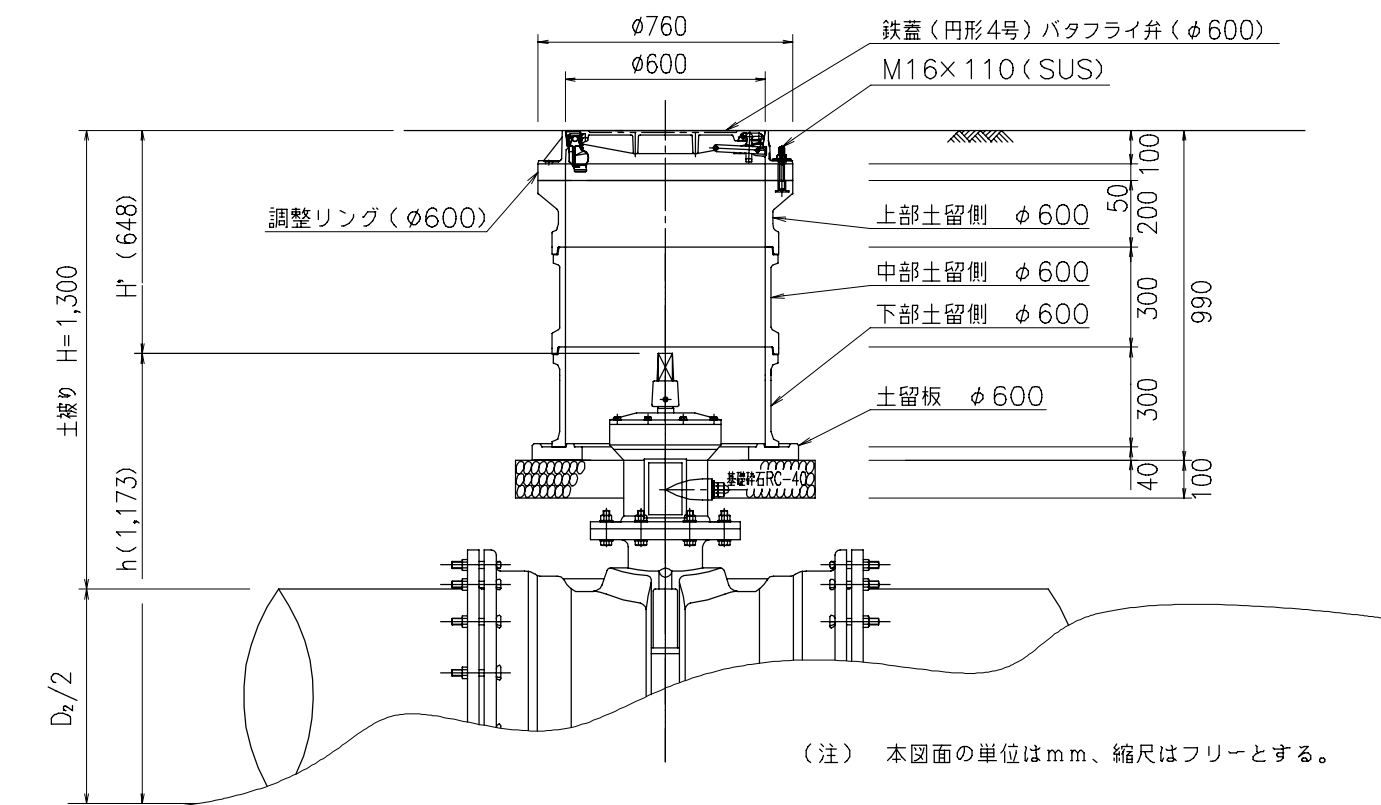
- (注) 1. 弁台コンクリート及び管防護コンクリートは必要に応じて別途算出すること。
2. φ1,000の土被りは、1,300とする。
3. φ1,100以上については、別途考慮すること。
4. 標準(土被り)以外の場合は、中部土留側・調整リング等を含め、土留組み合わせを変更することを検討すること。
5. 本図面は標準的なバタフライ弁h寸法により作図したものであり、メーカーごとにh寸法が異なること、また、ギア付きやセンターがずれたものがあるため、施工に当たっては上記4に準じ適宜対応すること。
6. 土被りが深く、維持管理上足掛金物を設置する必要がある場合は、別途考慮すること。
7. 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

ゴムシート形バタフライ弁室（800mm～1,000mm） 2

800mm～900mm



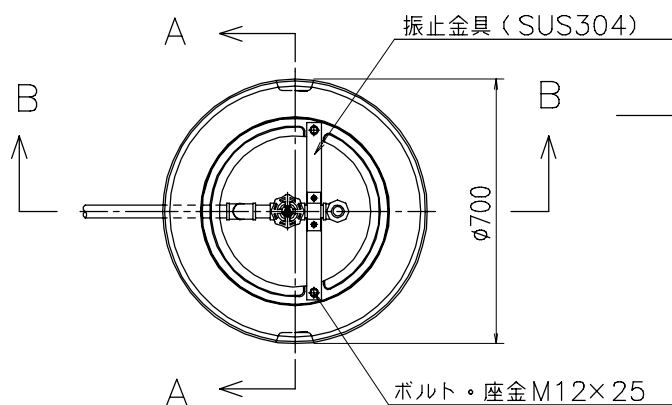
1,000mm



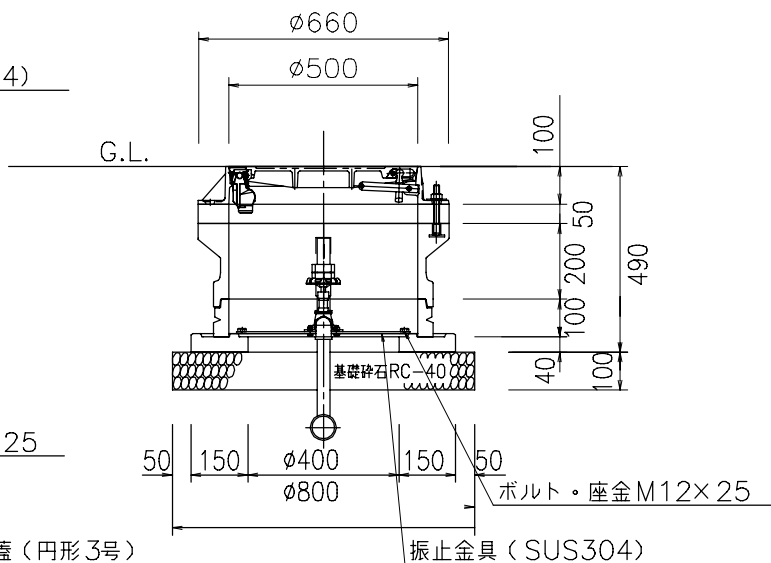
(注) 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

水拔栓

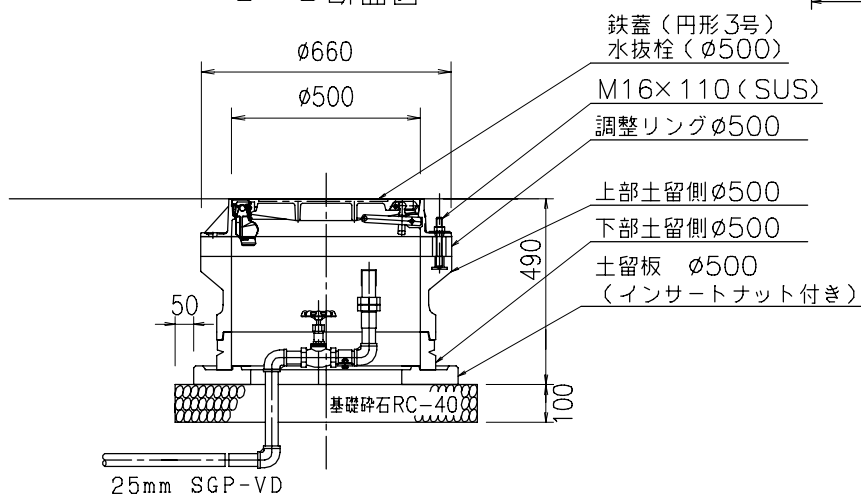
平面图



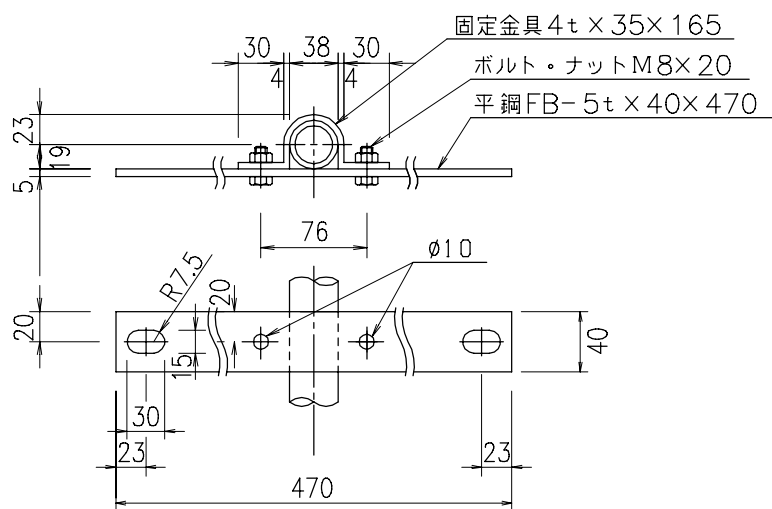
A-A断面图



B-B断面图



振止金具 (SUS304)

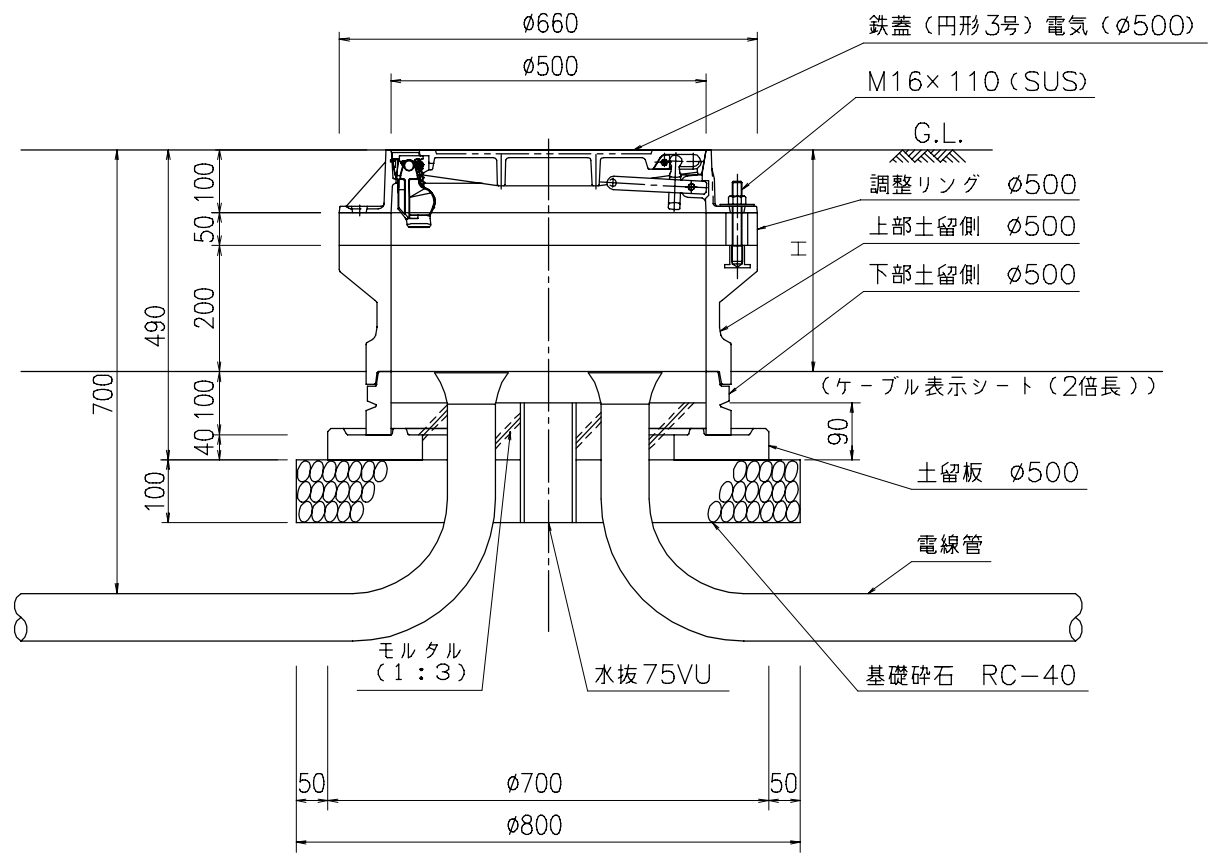


支給材料		
名 称	形状・寸法	数 量
鉄蓋(円形3号)	木抜栓(φ500)	1 個
調整リング	φ500×50	1 個
上部土留側	φ500×200	1 個
下部土留側	φ500×100	1 個
土留板 (インサートネット付き)	φ500×40	1 個

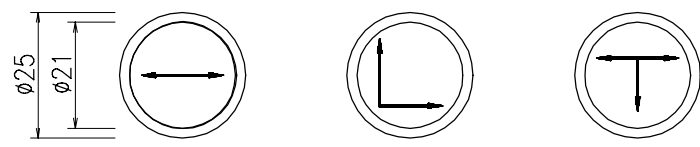
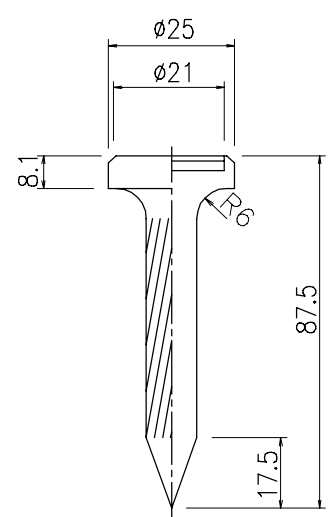
業者持材料等		
名 称	形状・寸法	数 量
基礎砕石(t=10cm)	RC-40	0.50m ²
スルース止水栓	IMP a管端コア付	1 個
SGP-VD	25	m
エルボ S.P.	25 管端コア付	3 個
ソケット S.P.	25 管端コア付	1 個
シモク付ユニオン	Hi25	1 個
キャップ	Hi25	1 個
振止金具		1 組
平 鋼	SUS304 5x40x470	1 本
固定金具	SUS304 4x35x165	1 個
ボルト・ナット	SUS304 M8x20	2 本
ボルト・座金	SUS304 M12x25	2 本

(注) 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

電気ハンドホール



表示ピン（業者持材料）

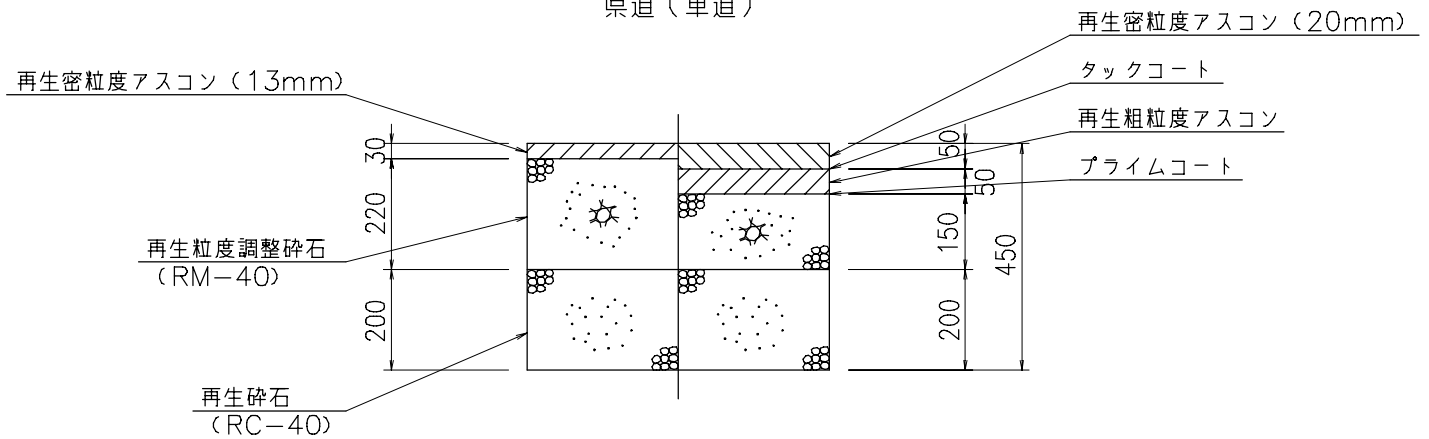


名 称	業者持材料					その他（10か所当り）		
	鉄蓋 円形 3号 電気	調整リング φ500	上部土留側 φ500	下部土留側 φ500	土留板 φ500	基礎砕石 RC-40	モルタル	水 抜
形状・寸法	φ500	50H	200H	100H	40H	t=10cm	(1 : 3)	75VU
数 量	1 個	1 個	1 個	1 個	1 個	5.00m ²	0.10m ³	1.90m

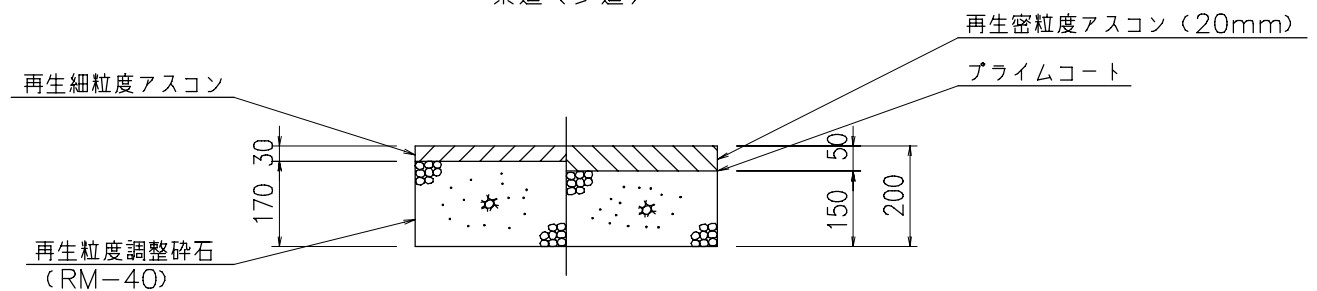
- (注) 1. ケーブル表示シート（2倍長）は別途管明示工による。
2. H寸法は埋設深度の1/2とする。
3. 表示ピンの設置か所については別途指示によること。
4. 表示ピンの頭部には、図示の矢印（赤色）を表示する。
5. 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

アスファルト舗装復旧断面図 1 (左：仮舗装復旧 右：本舗装復旧)

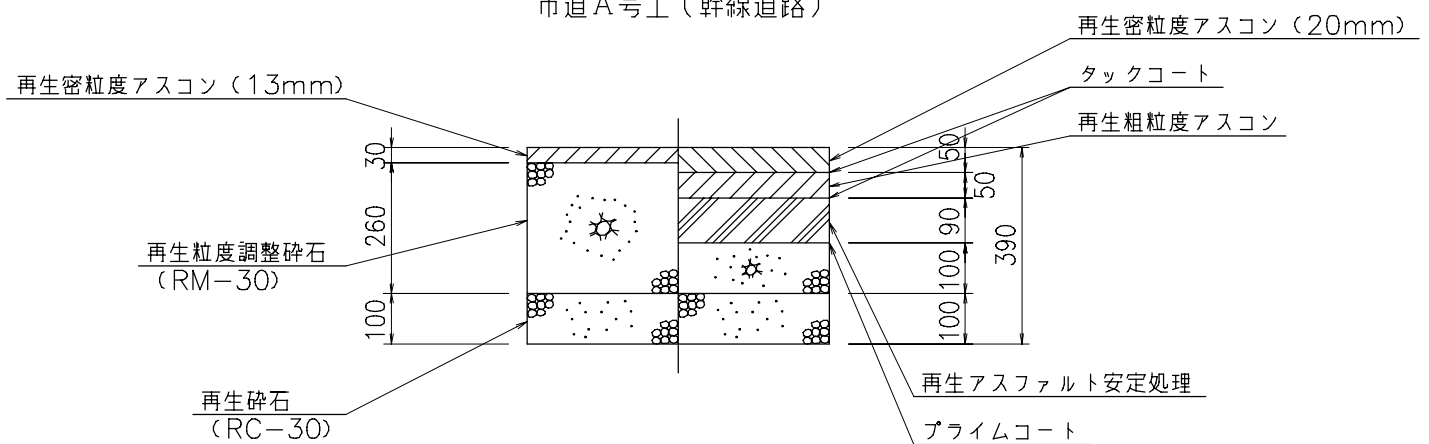
県道（車道）



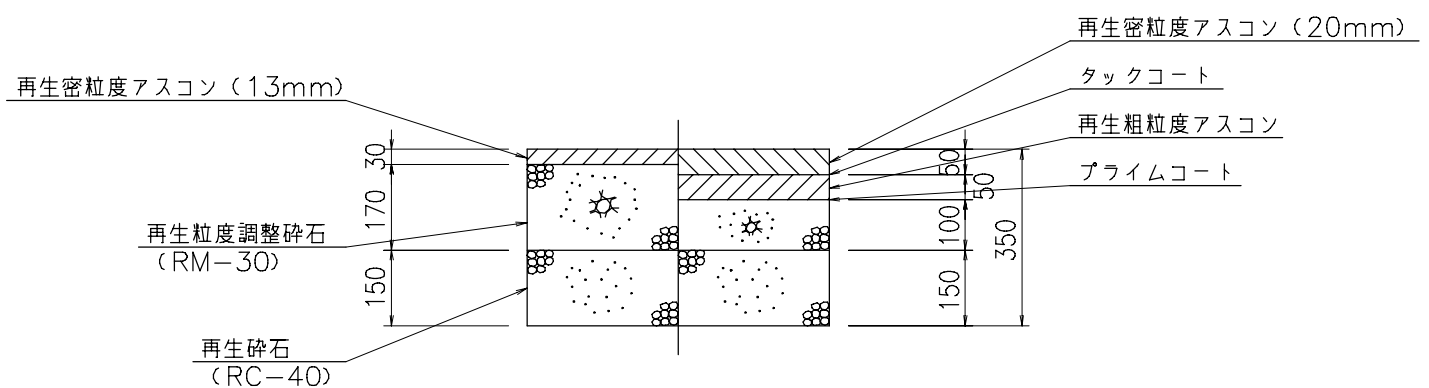
県道（歩道）



市道A号工（幹線道路）

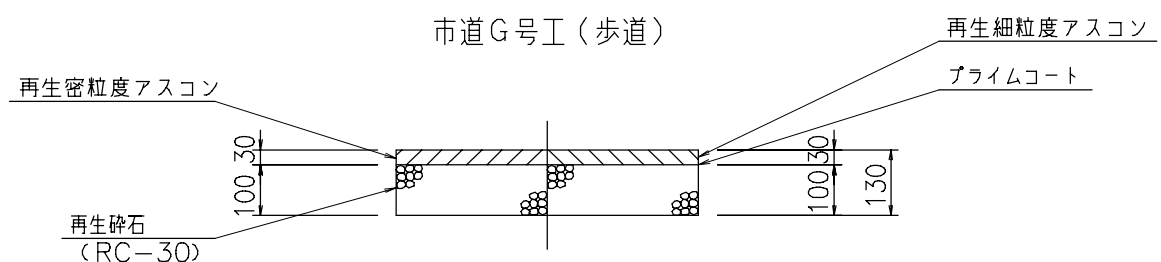
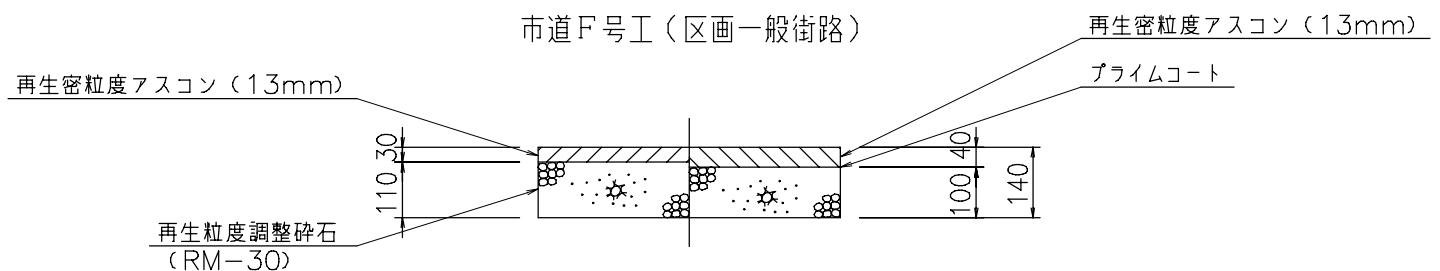
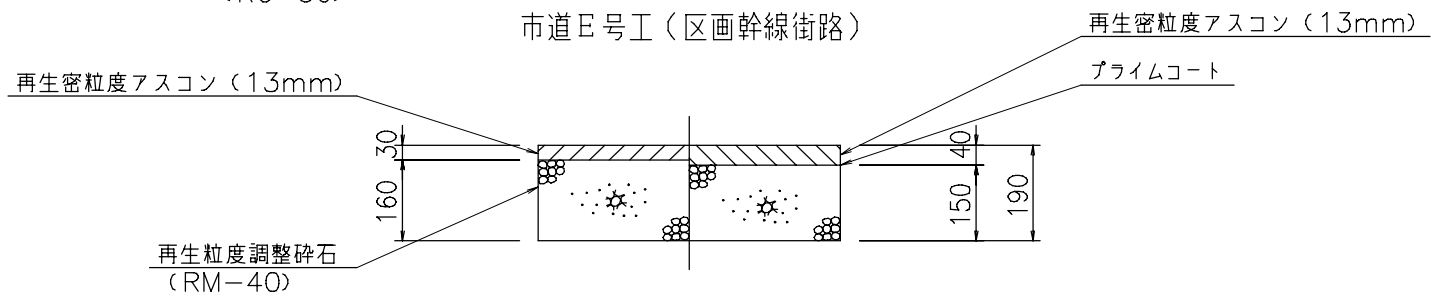
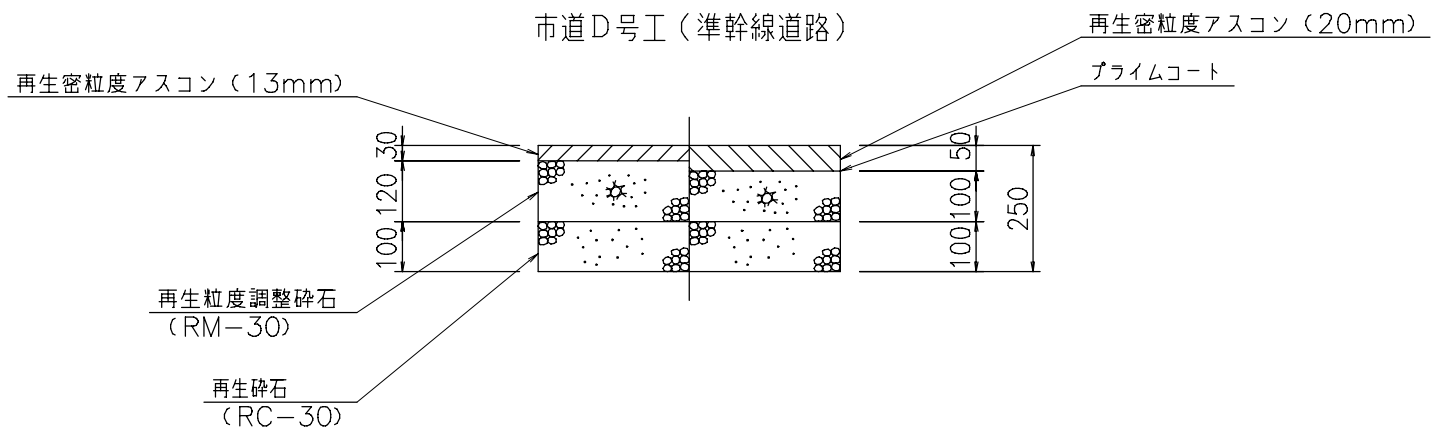
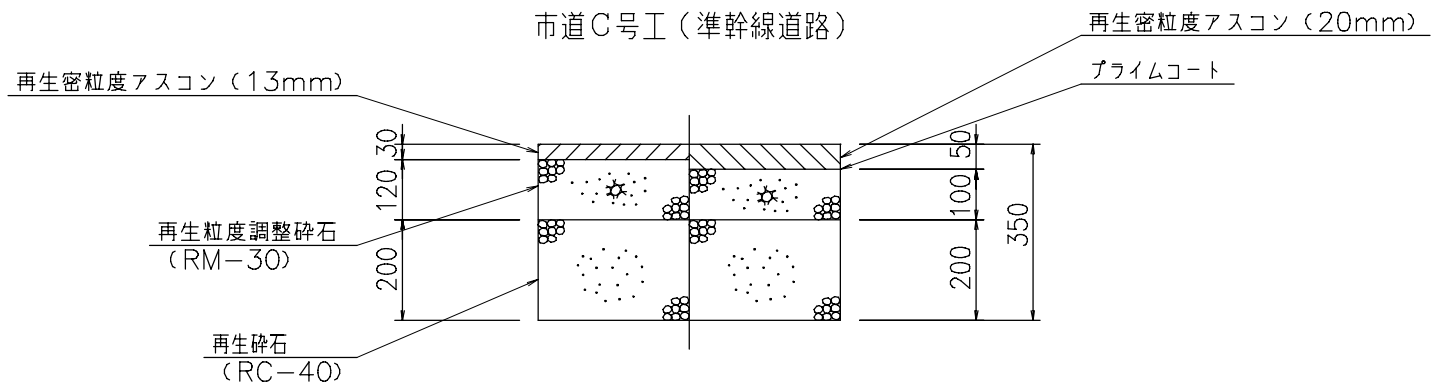


市道B号工（幹線道路）



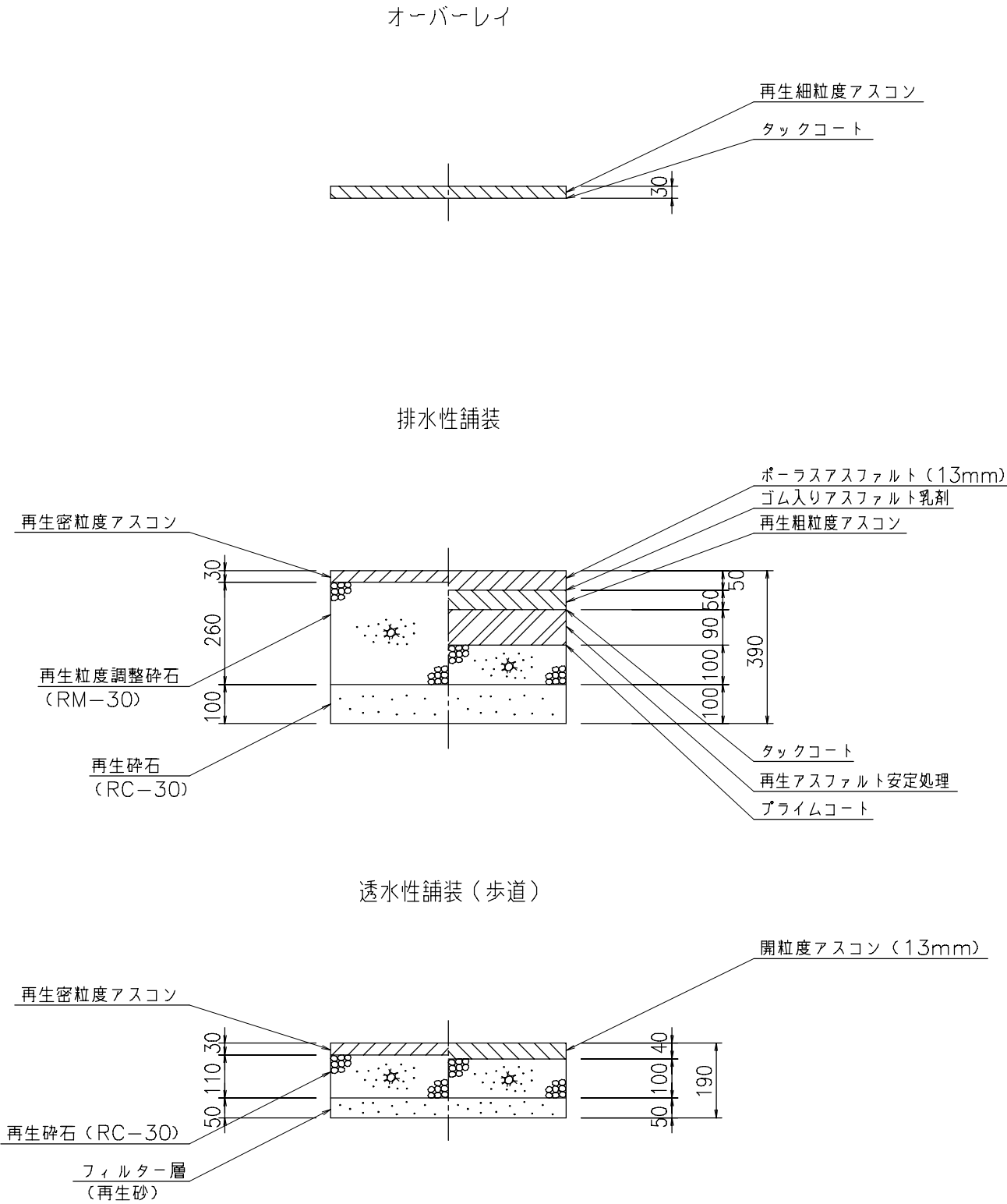
(注) 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

アスファルト舗装復旧断面図 2 (左 : 仮舗装復旧 右 : 本舗装復旧)



(注) 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

アスファルト舗装復旧断面図 3 (左：仮舗装復旧 右：本舗装復旧)

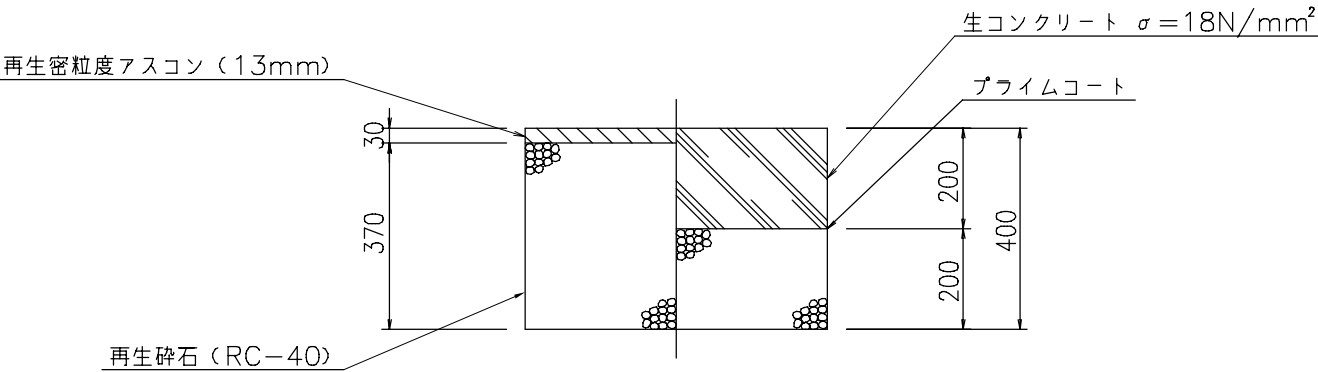


適用に当たっては、広島市の管理道のみとし、広島市管理以外の国道・県道及び府中町・坂町の管理道については、別途各道路管理者と協議すること。また、広島市の管理道であっても、路線によって構造が異なる場合があるため、道路管理者に確認すること。

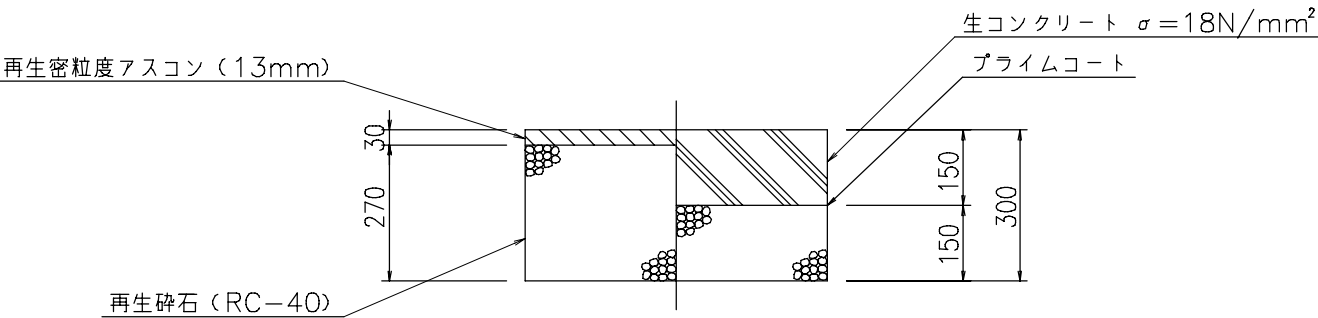
(注) 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

コンクリート舗装復旧断面図
 (
 左：仮舗装復旧
 右：本舗装復旧
)

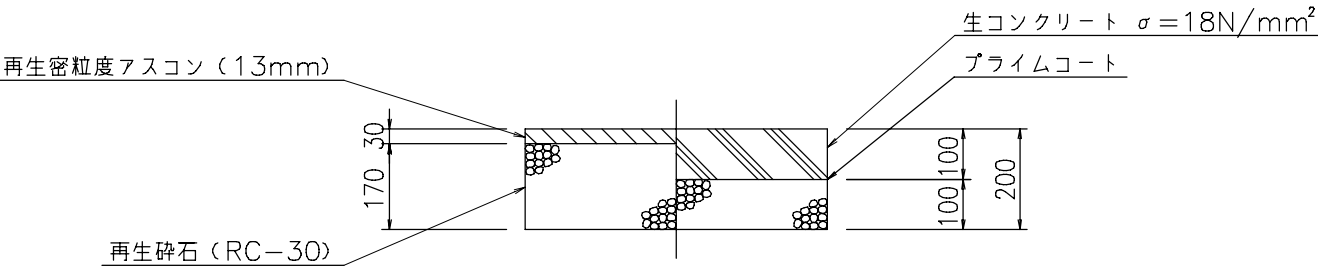
厚 20cm



厚 15cm



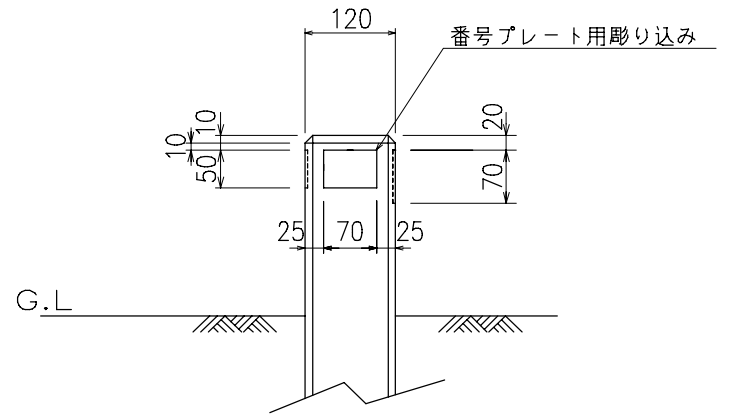
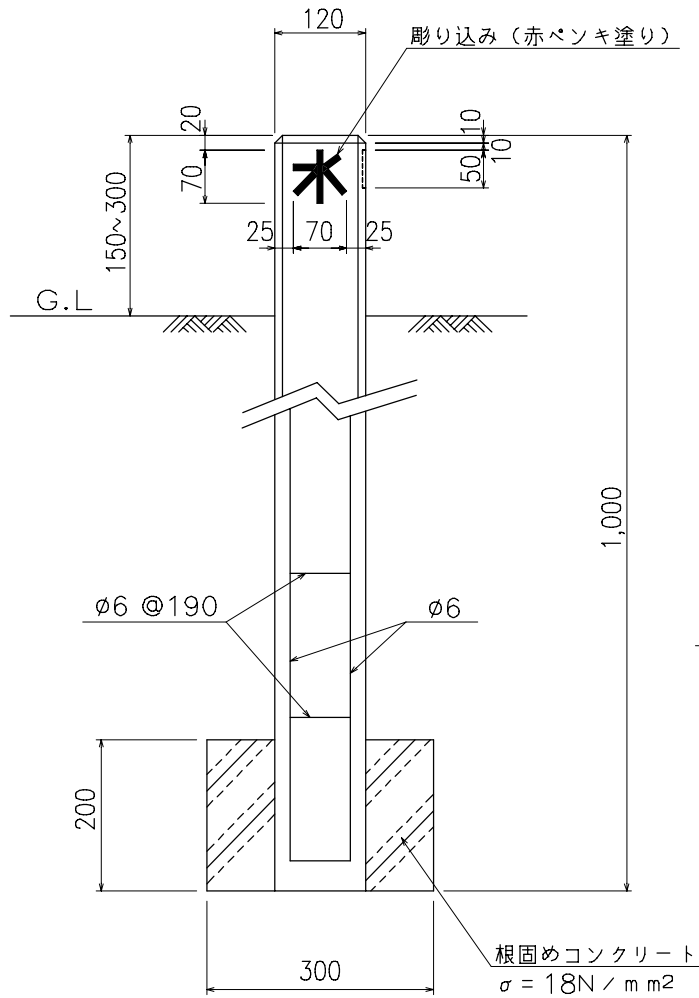
厚 10cm



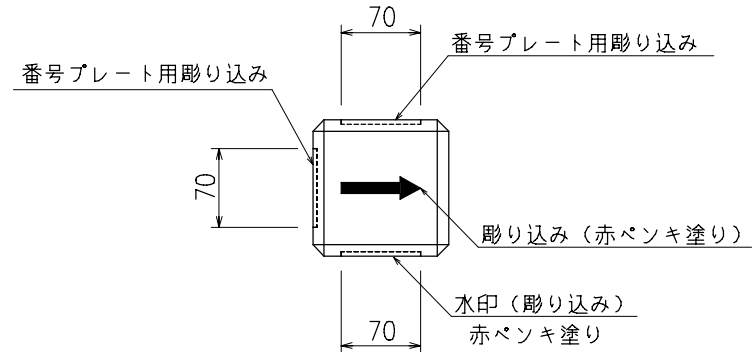
(注) 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

境界杭、明示板 1

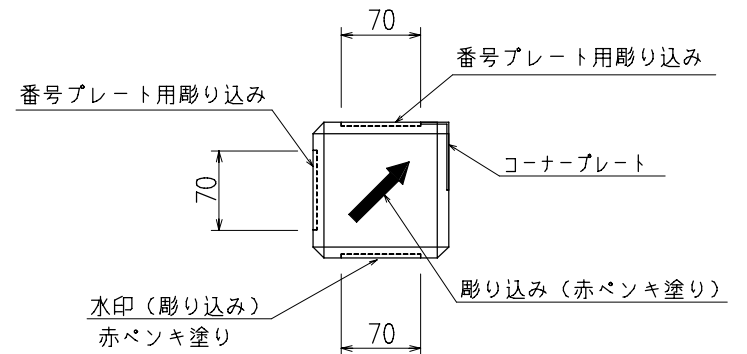
コンクリート杭



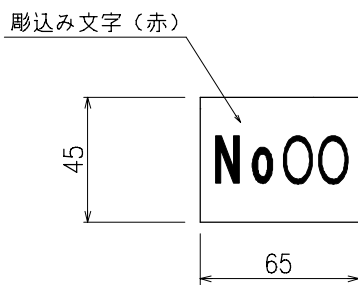
直線部用
(4方面取り)



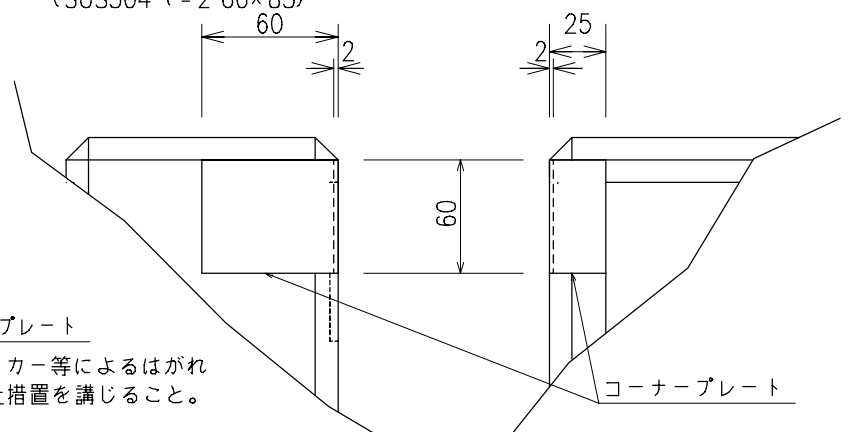
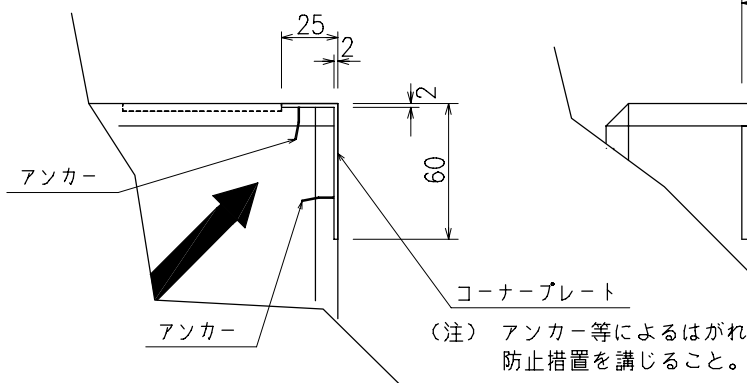
屈折部用
(3方面取り)



番号プレート
(アルミPL 65x45) t=3mm



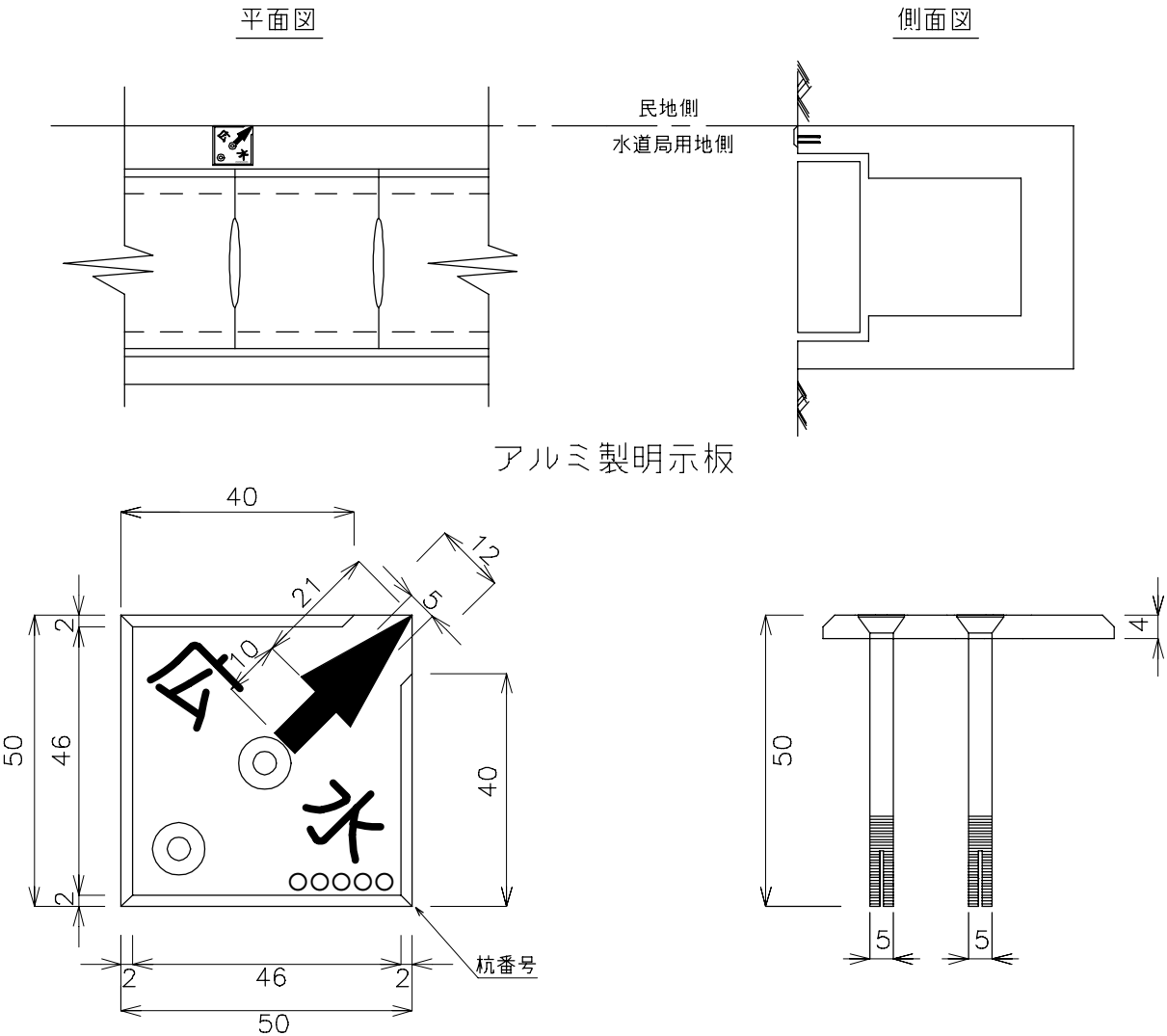
コーナープレート
(SUS304 t=2 60x85)



(注) 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

境界杭、明示板 2

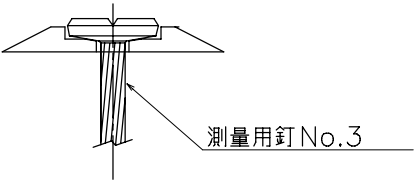
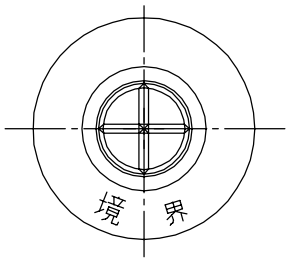
アルミ製明示板設置図



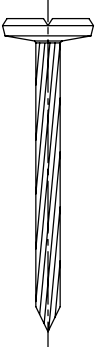
- ※仕様（JIS B 7914-2 規格）
- ・面取りあり
 - ・矢印、文字及び杭番号：凹形、赤塗り
 - ・矢印：深さ約2mm
 - ・文字：深さ約0.5mm、丸ゴシック体、38ポイント
 - ・杭番号：深さ約0.25mm、丸ゴシック体、14ポイント

金属製明示板

測量用釘ワッシャー
アルミ製(φ40×8×φ8)



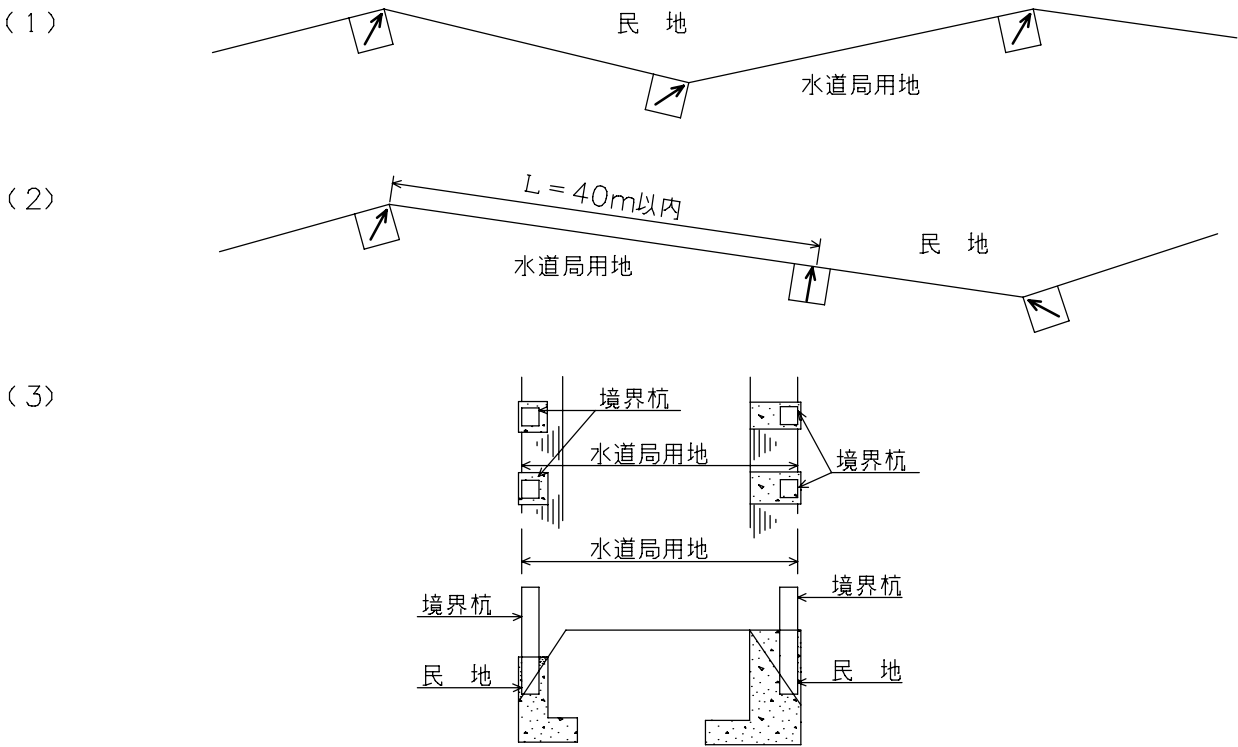
測量用釘
No.3



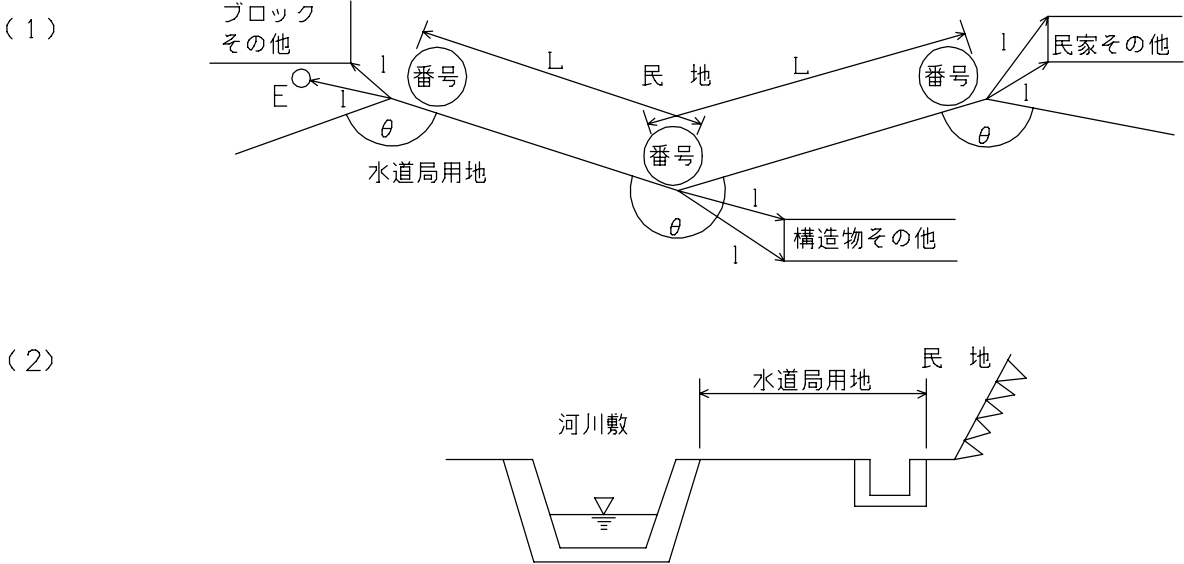
（注） 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

境界杭、明示板 3

境界杭設置位置

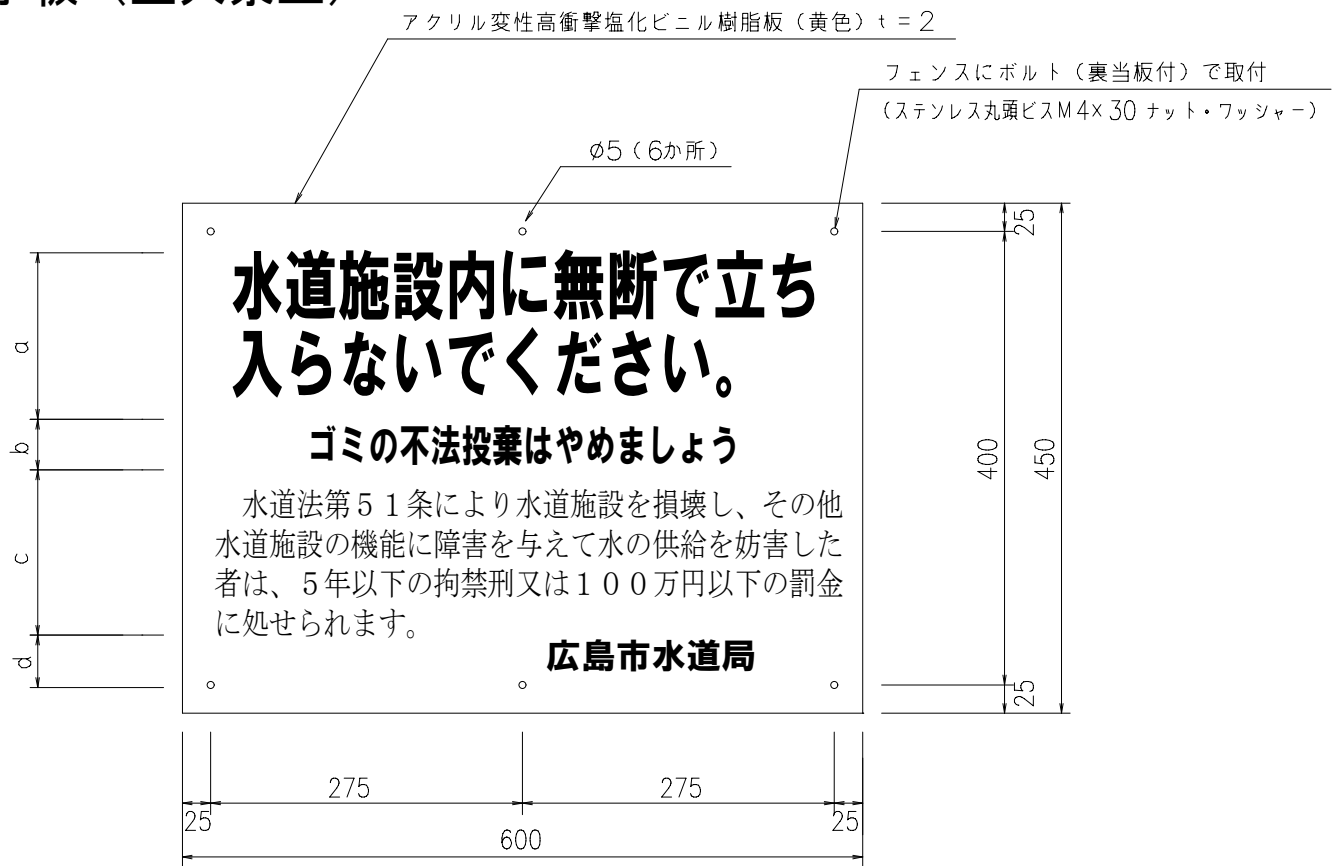


設置図作成



(注) 設置図作成に当たっては、各境界点の引照点を原則として設置しなければならない。なお、その選定においては、できるだけ永久的な構造物等としなければならない。

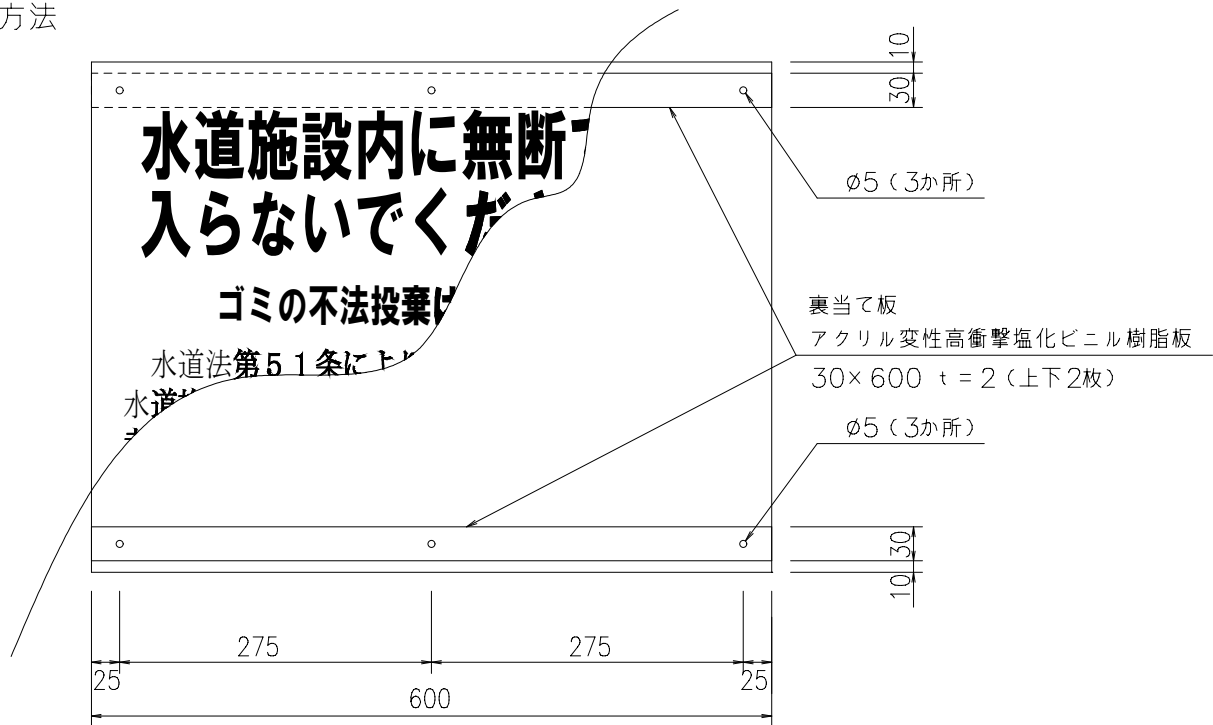
標示板（立入禁止）



仕 様

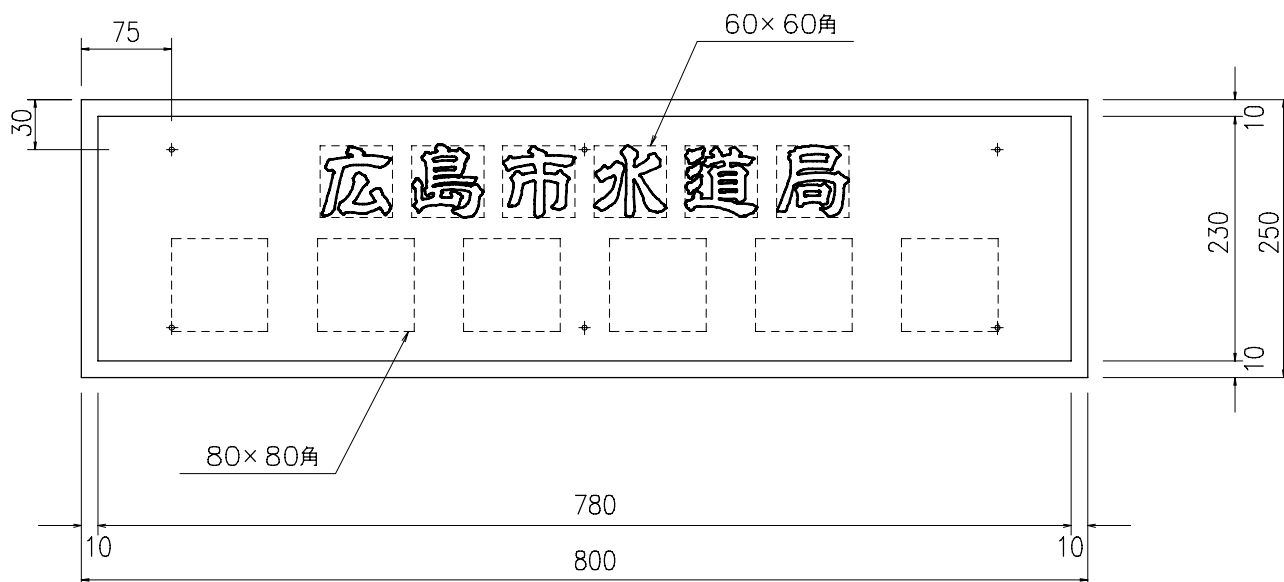
1. 字体については、以下とする。
 - a : 52角ゴシック体
 - b : 30角ゴシック体
 - c : 20角明朝体
 - d : 25角ゴシック体
2. ベース板は、アクリル変性高衝撃塩化ビニル樹脂板（黄色） $t = 2$ とする。
3. 文字はすべて黒色とする。
4. 裏当て板は標示板と同材質とし、幅30×長さ600が2枚とする。

取付方法



（注） 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

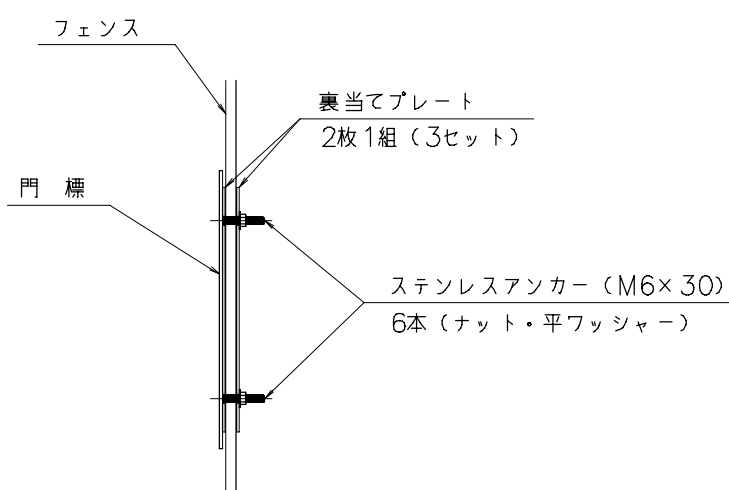
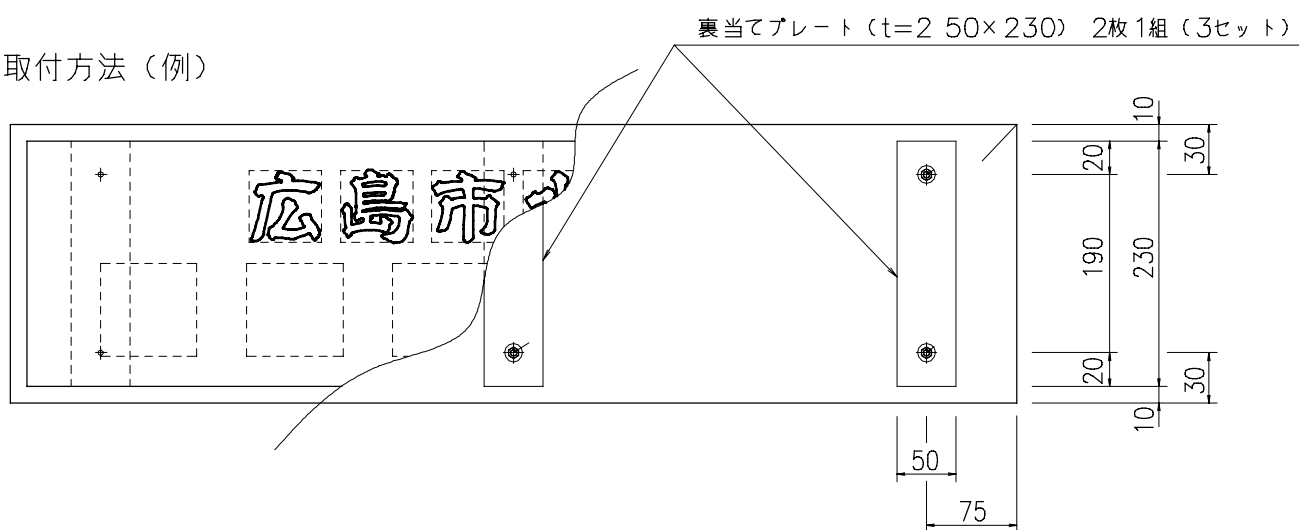
門 標



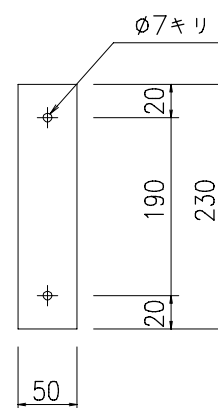
仕 様

1. 字体について、広島市水道局は60×60 隷書体とし、施設名称は80×80 隷書体とする。
2. 門標は、ステンレス（SUS304）プレート、 $t=2$ 800×250とし、仕上げはヘアライン仕上げ（横目）とする。
また、枠及び文字はエッチング凸文字、凹部は黒色仕上げとする。
3. 「□□□□□□」には、施設名称を明示する。

取付方法（例）



裏当てプレート
SUS304 ($t=2$ 50×230)

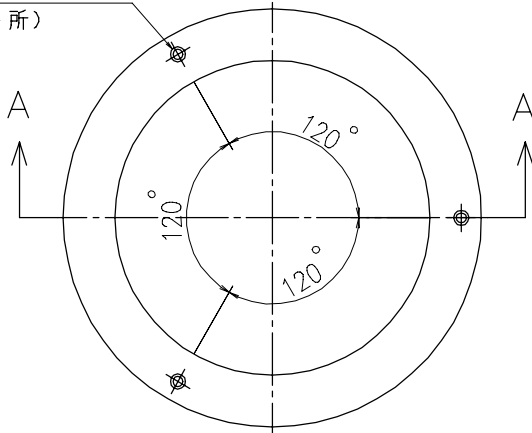


- (注) 1. 本図面は、フェンスに取付ける場合のものであり、フェンス以外への取付けについては検討すること。
2. 本図面の単位はmm、縮尺はフリーとする。

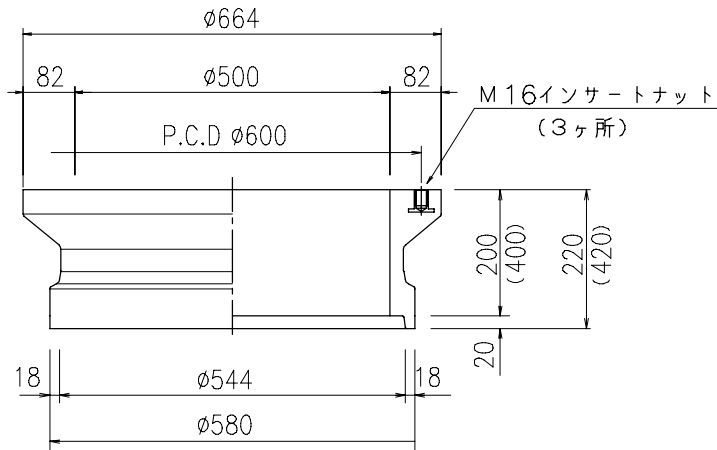
土留側（φ500）（JWWA K 148（準拠））

上部土留側（200・400H）
（レジンコンクリート）

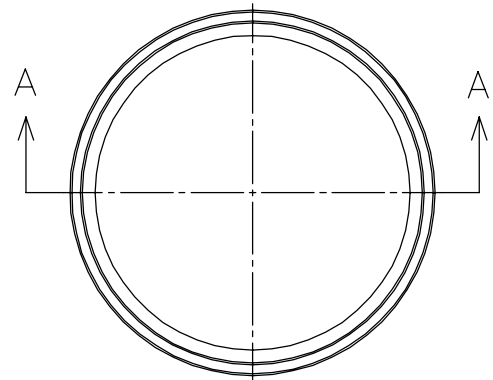
M16インサートナット
（3ヶ所）



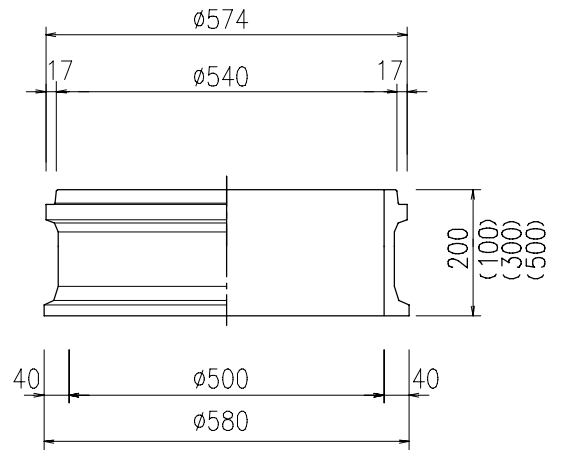
A - A 断面図



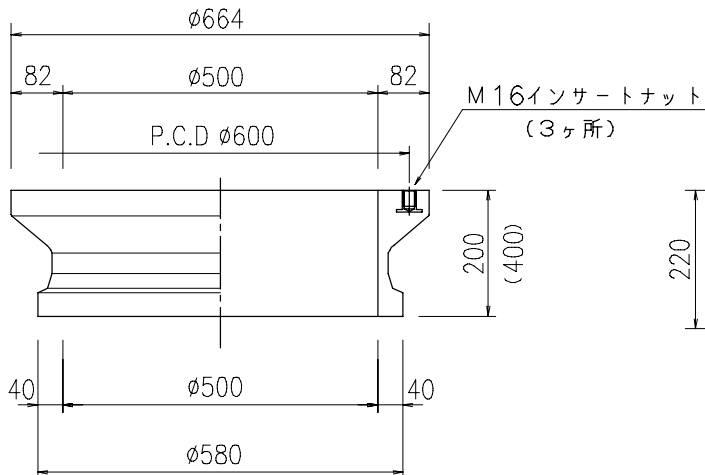
下部土留側
（100・200・300・500H）
（レジンコンクリート）



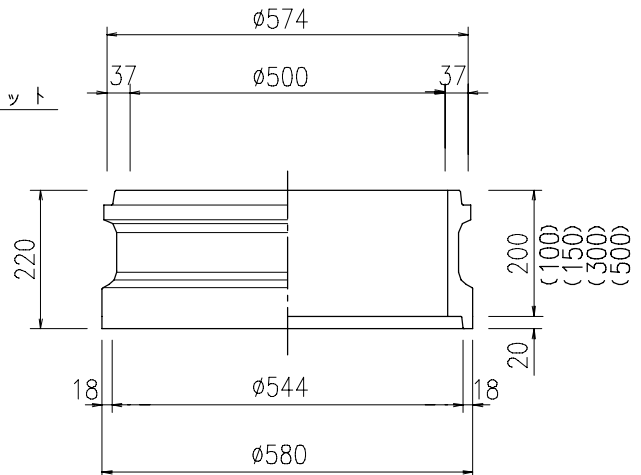
A - A 断面図



上下部土留側
（200・400H）
（レジンコンクリート）



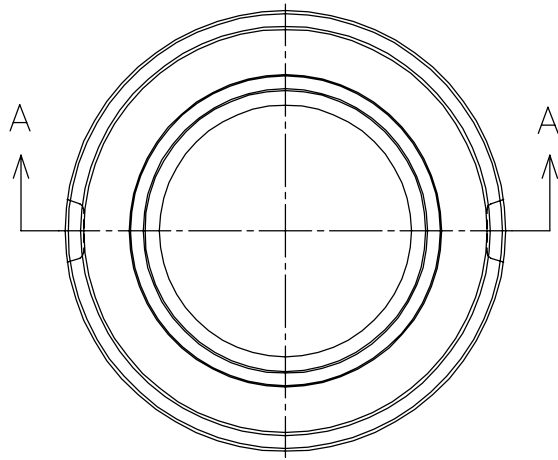
中部土留側
（100・150・200・300・500H）
（レジンコンクリート）



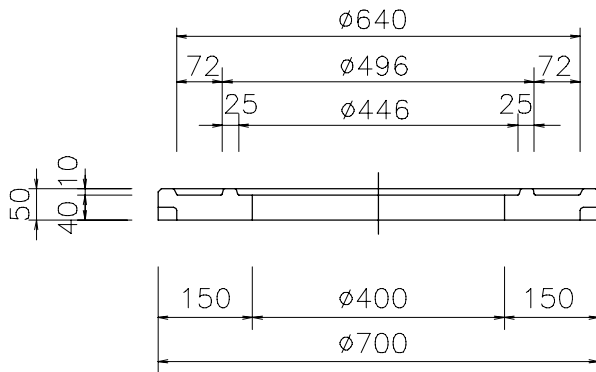
（注） 本図面の単位はmmで、縮尺はフリーとする。

土留板、調整リング（φ500）（JWWA K 148（準拠））

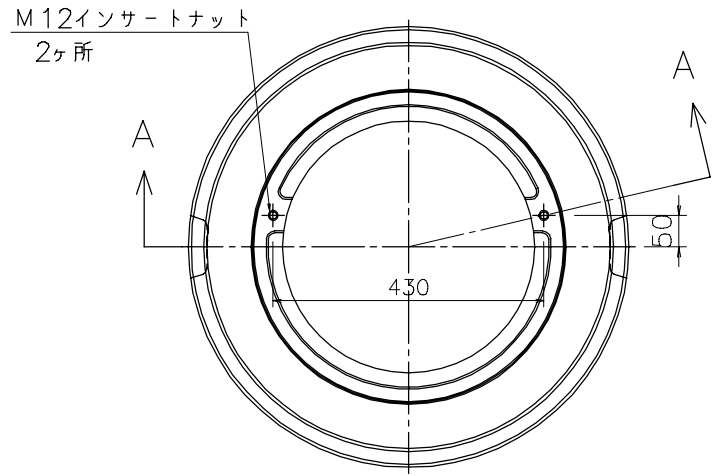
土留板（40H）
（レジンコンクリート）



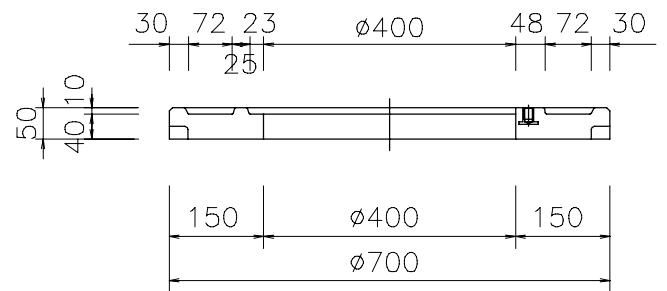
A - A 断面図



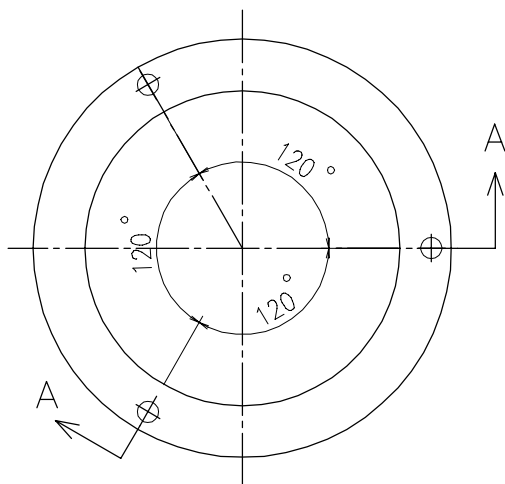
土留板（40H）
インサートナット付
（レジンコンクリート）



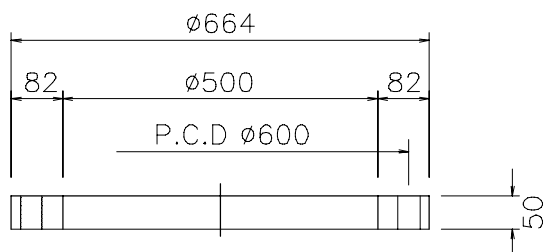
A - A 断面図



調整リング
（50H）
（REP）

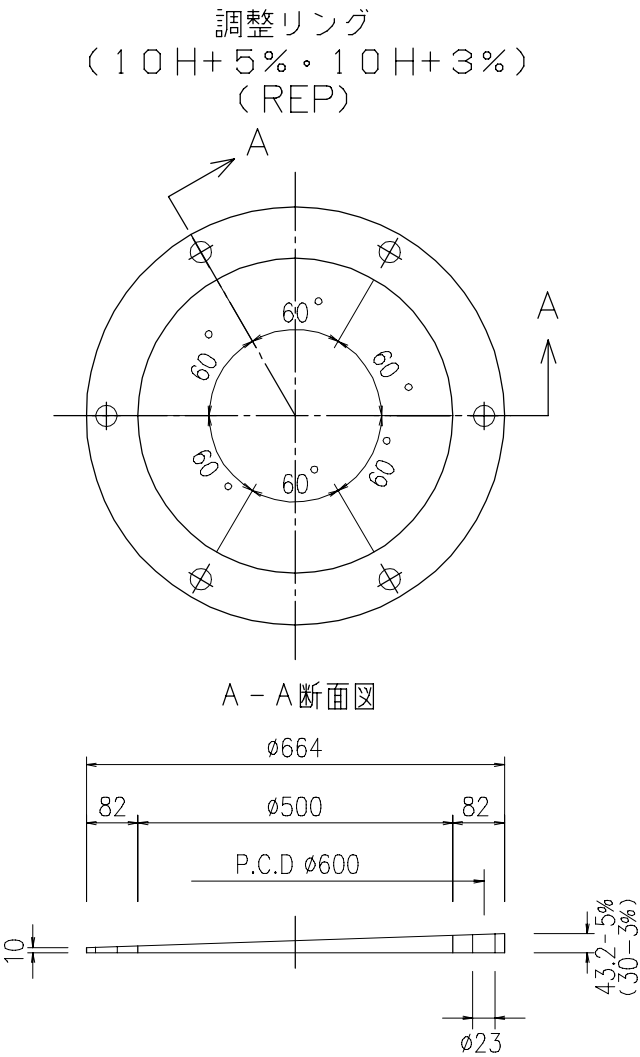
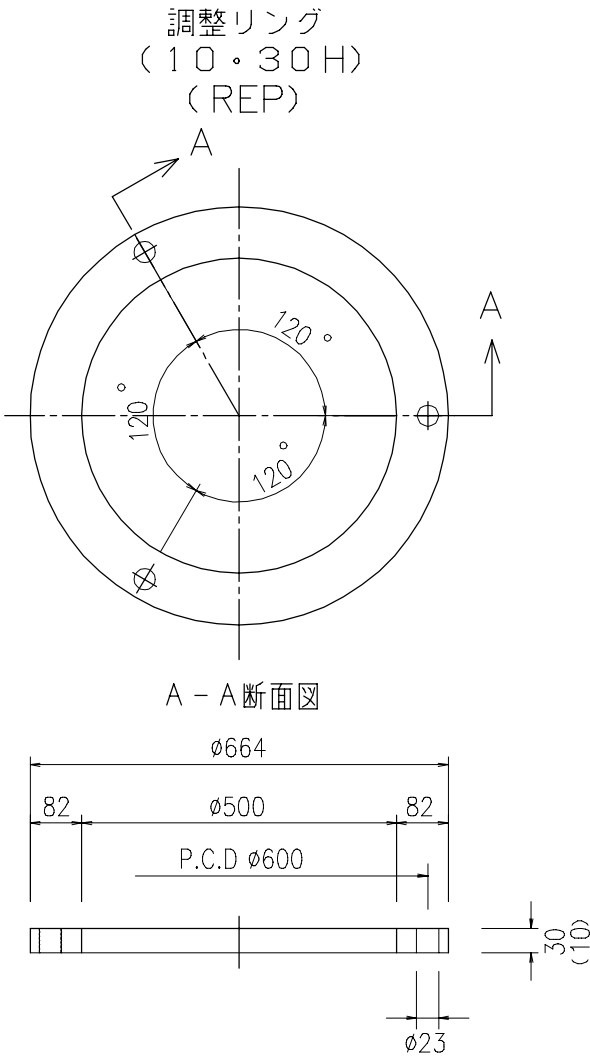


A - A 断面図



（注） 本図面の単位はmmで、縮尺はフリーとする。

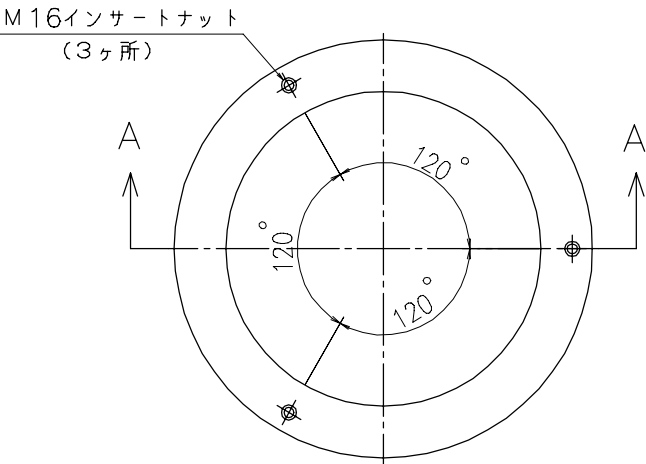
調整リング（φ500）



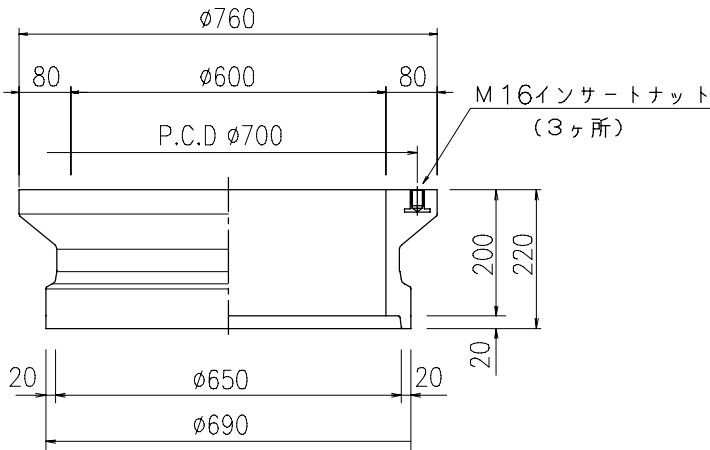
(注) 1. REP製の調整リングは2枚重ねまでとする。
2. 本図面の単位はmmで、縮尺はフリーとする。

土留側（φ600）（JWWA K 148（準拠））

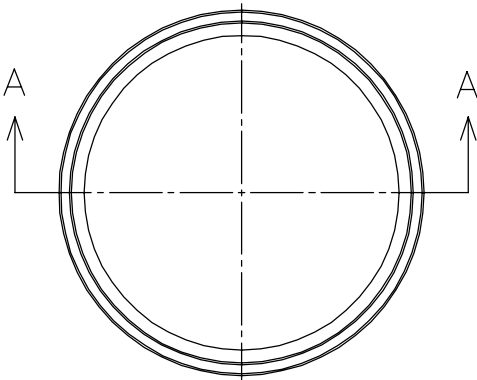
上部土留側（200H）
（レジンコンクリート）



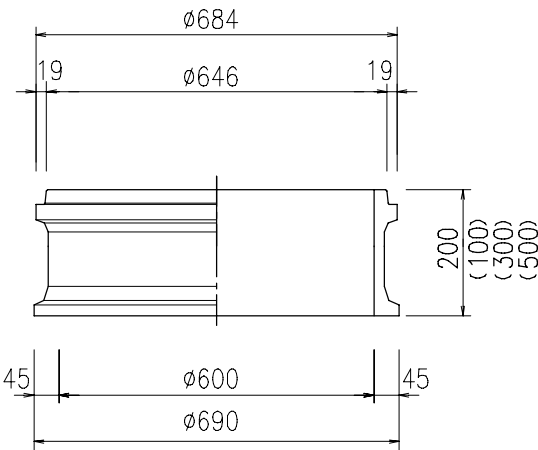
A - A 断面図



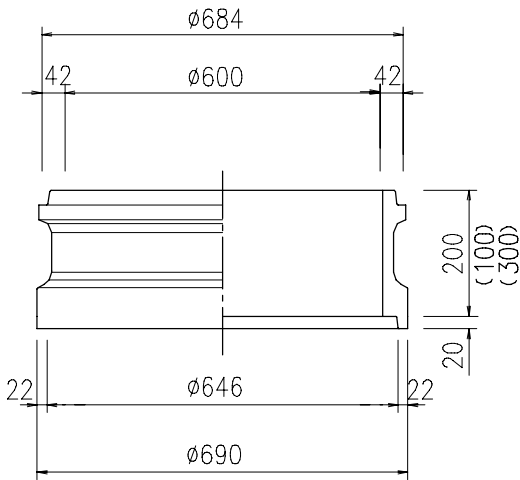
下部土留側
（100・200・300・500H）
（レジンコンクリート）



A - A 断面図



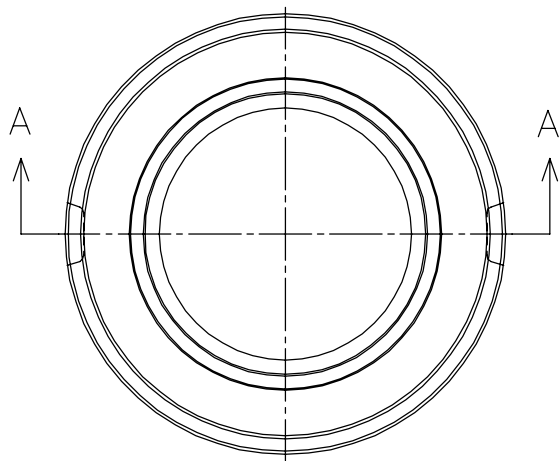
中部土留側
（100・200・300H）
（レジンコンクリート）



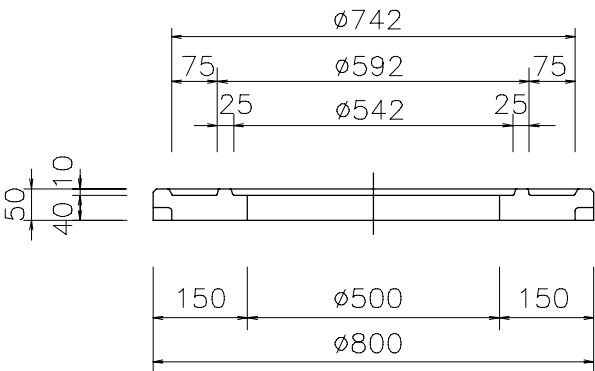
（注） 本図面の単位はmmで、縮尺はフリーとする。

土留板、調整リング（φ600）（JWWA K 148（準拠））

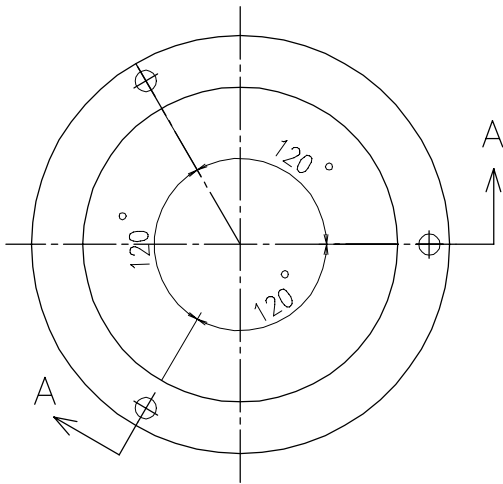
土留板（40H）
（レジンコンクリート）



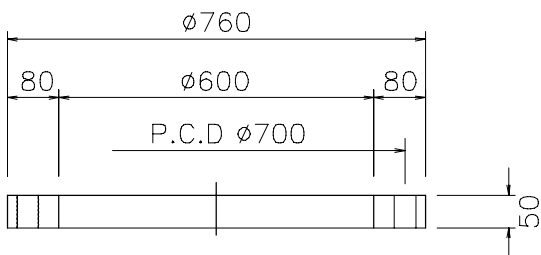
A - A 断面図



調整リング
（50H）
（REP）

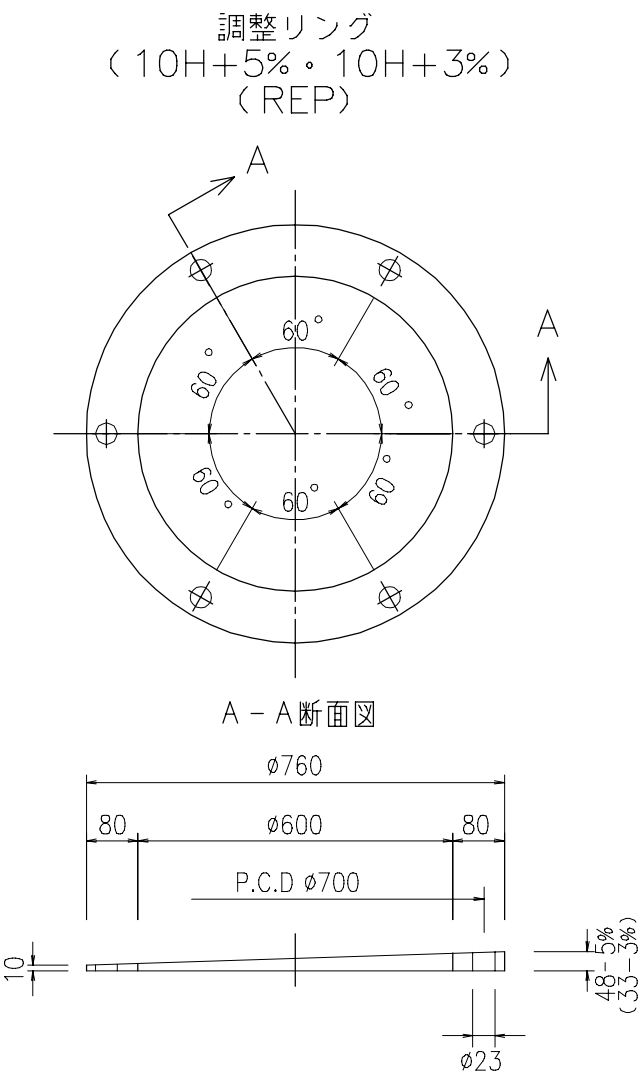
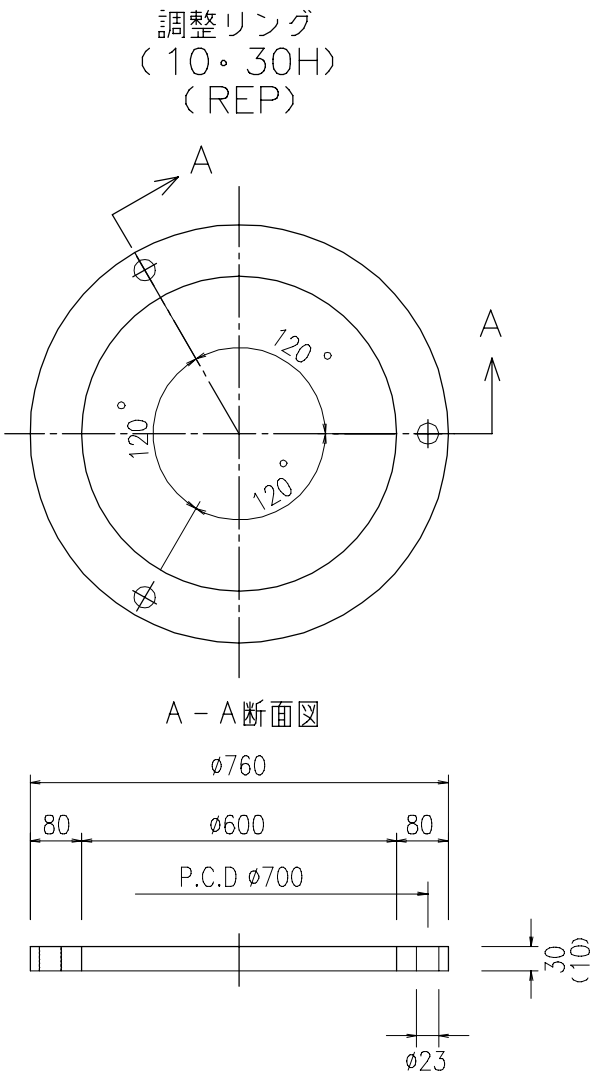


A - A 断面図



（注） 本図面の単位はmmで、縮尺はフリーとする。

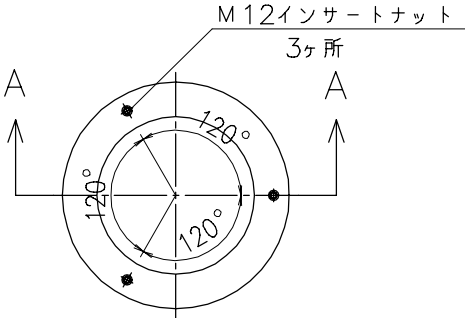
調整リング（φ600）



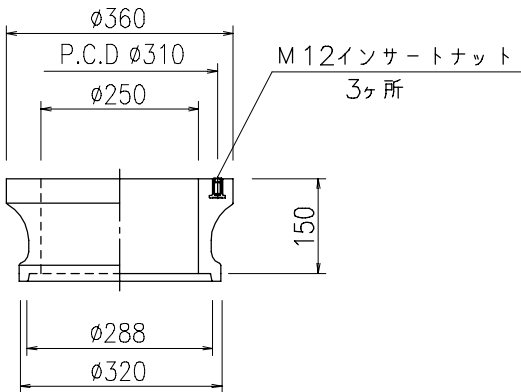
(注) 1. REP製の調整リングは2枚重ねまでとする。
2. 本図面の単位はmmで、縮尺はフリーとする。

土留側、土留板（φ250）（JWWA K 148（準拠））

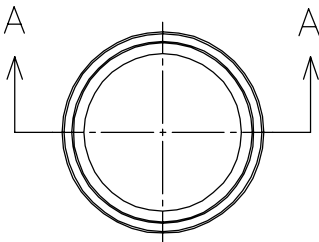
上部土留側
（150H）
（レジンコンクリート）



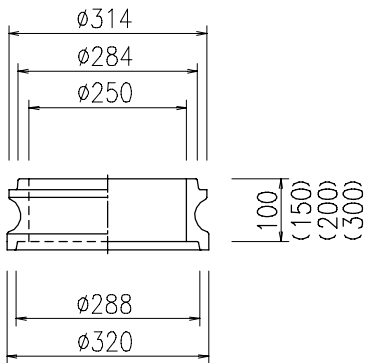
A - A 断面図



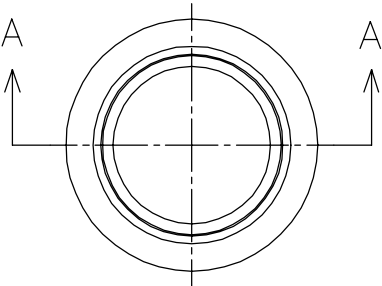
中部土留側
（100・150・200・300H）
（レジンコンクリート）



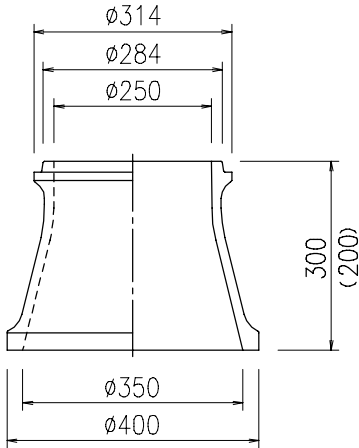
A - A 断面図



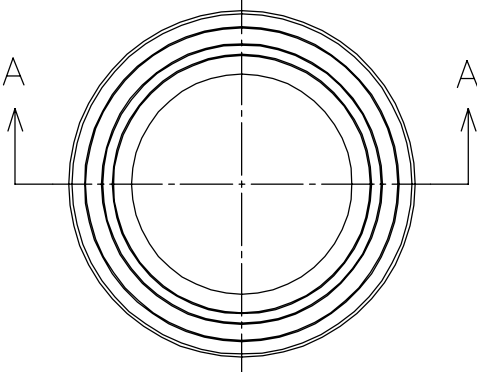
下部土留側（200・300H）
（レジンコンクリート）



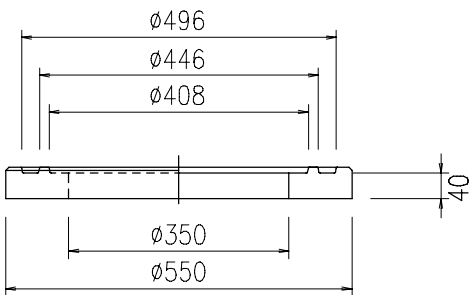
A - A 断面図



土留板（40H）
（レジンコンクリート）



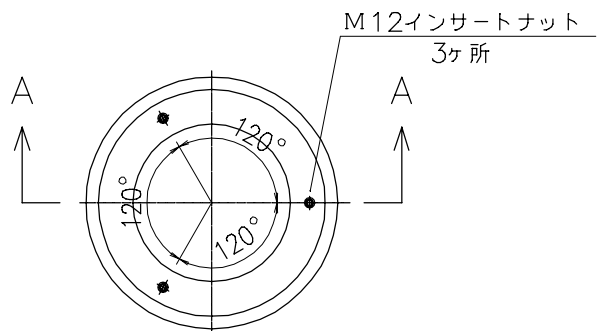
A - A 断面図



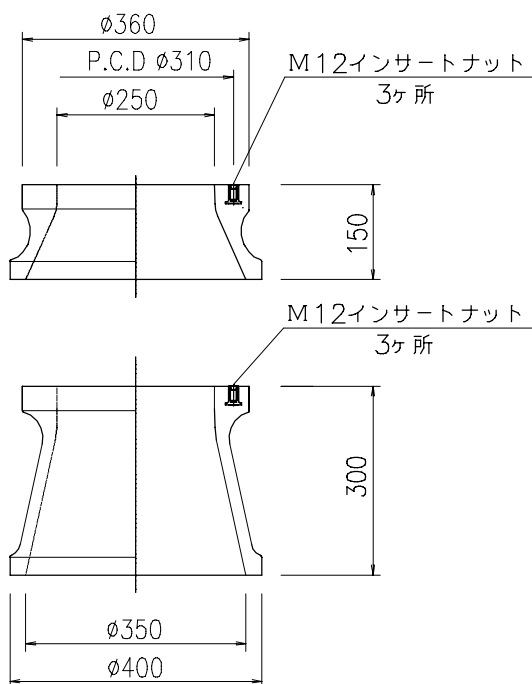
（注） 本図面の単位はmmで、縮尺はフリーとする。

土留側、調整リング (φ250)

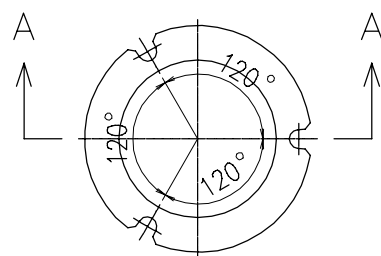
上下部土留側 (150・300H)
(レジンコンクリート)
(JWWA K 148準拠)



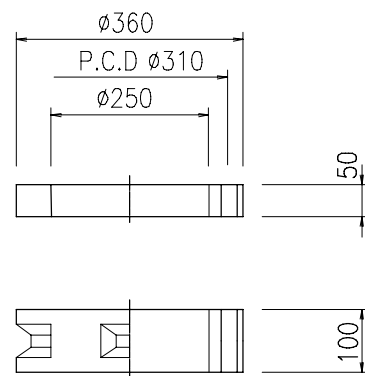
A-A断面図



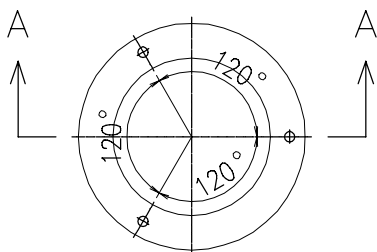
調整リング (50・100H)
(レジンコンクリート)
(JWWA K 148準拠)



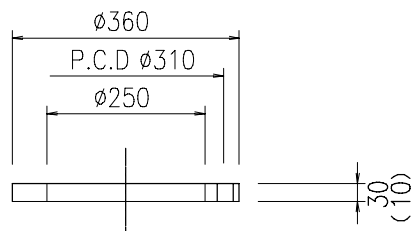
A-A断面図



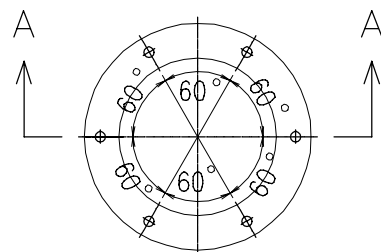
調整リング (10・30H)
(REP)



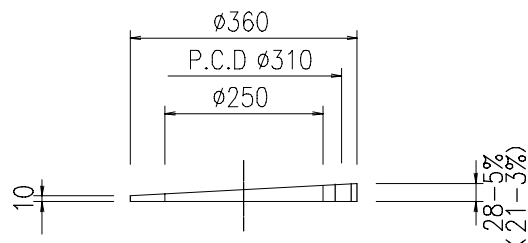
A-A断面図



調整リング
(10H+5%・10H+3%)
(REP)

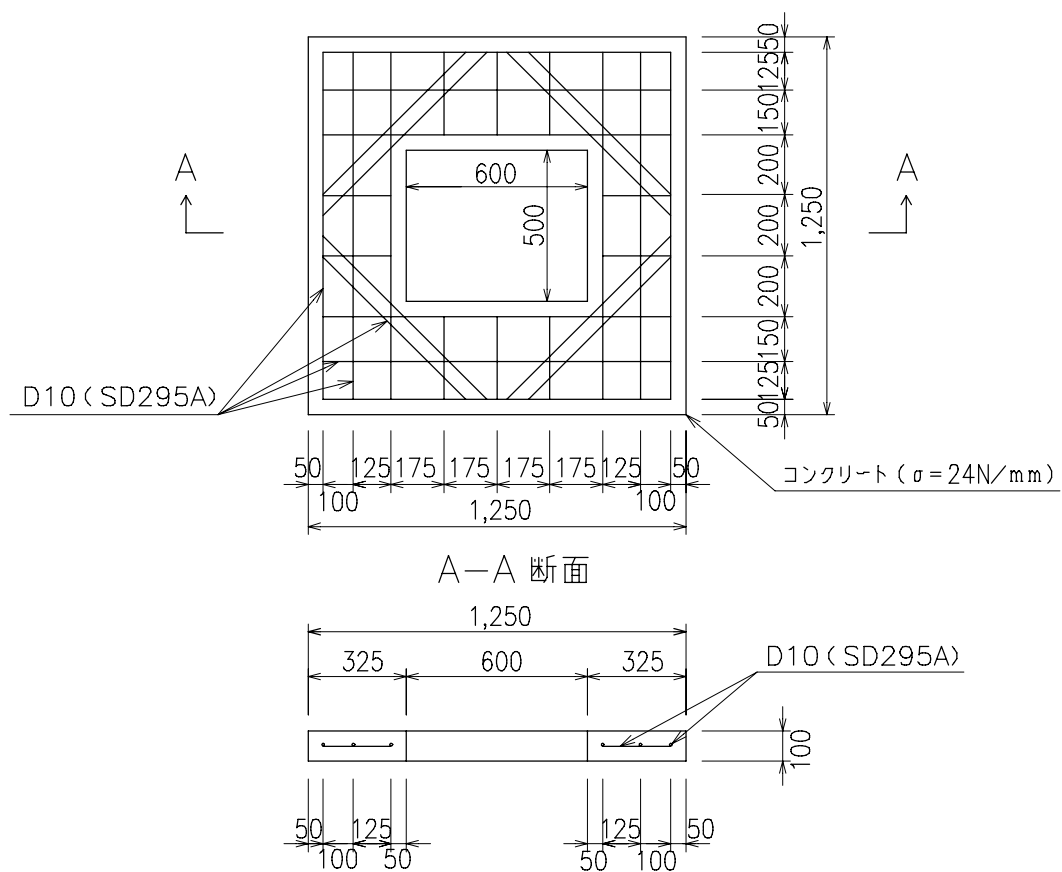


A-A断面図

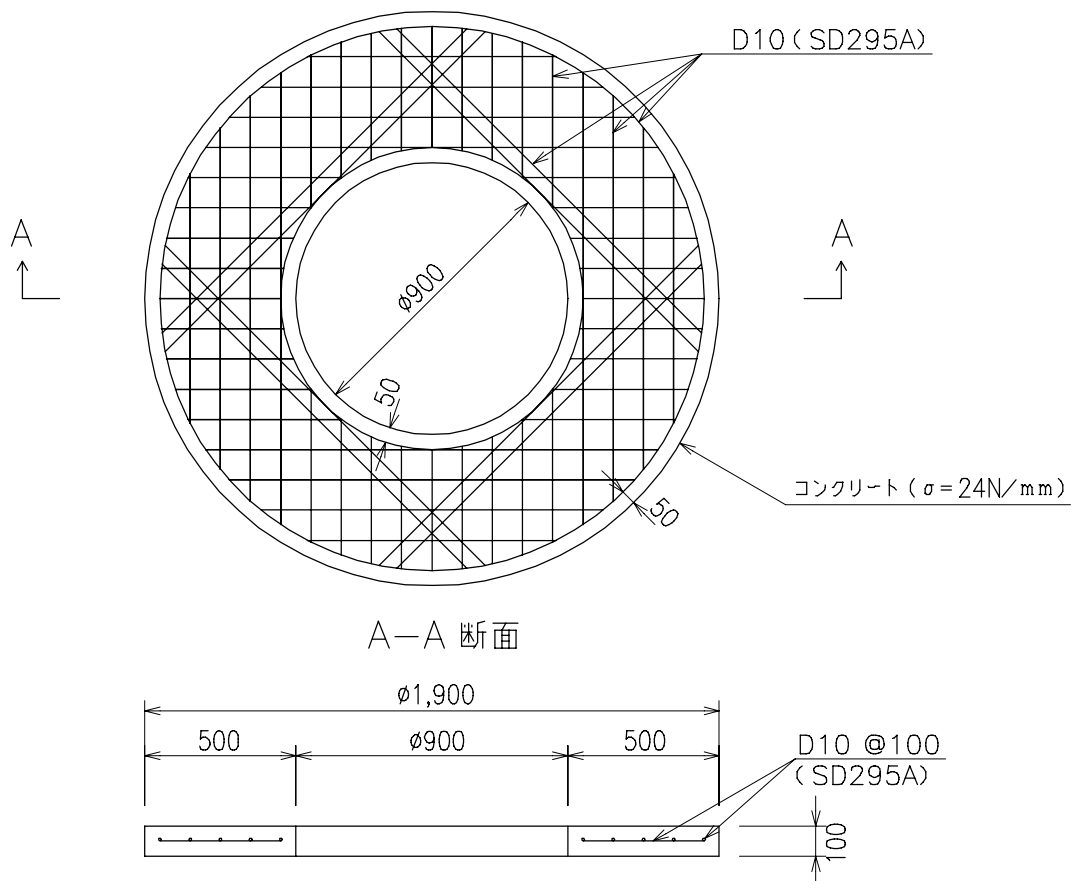


- (注) 1. REP製の調整リングは2枚重ねまでとする。
2. 本図面の単位はmmで、縮尺はフリーとする。

コンクリート土留板 1,250x1,250x100（開孔 600x500）

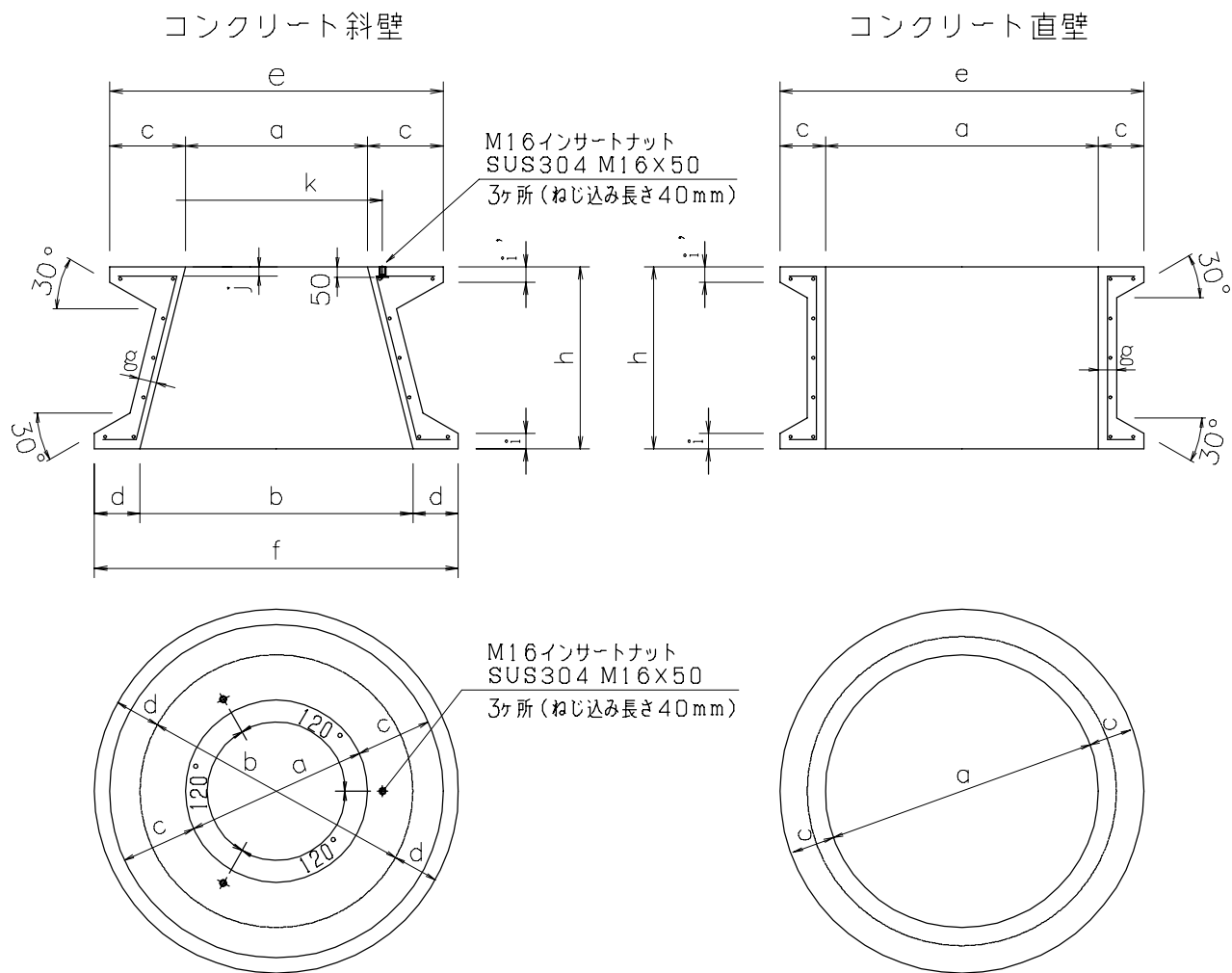


コンクリート円形床版 $\phi 1,900 \times 100$ （開孔 $\phi 900$ ）

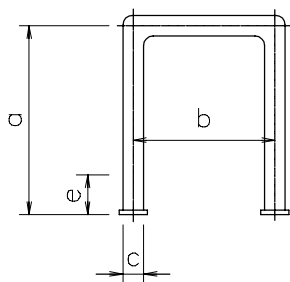


（注） 本図面の単位はmmで、縮尺はフリーとする。

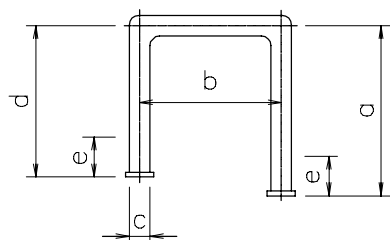
コンクリート斜壁及び直壁 (JIS A 5372)



足掛金物A (FCD)



足掛金物B (FCD)



呼　　び　　名		寸　　法　　（mm）												重　　量 （kg）
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	i'	j	k	
コン ク リ ー ト 斜 壁	600（A）	600	900	250	150	1,100	1,200	60	300	50	60	30	700	318
	600（C）	600	900	250	150	1,100	1,200	60	600	50	60	30	700	423
	600（D）	600	1,200	250	150	1,100	1,500	70	600	50	60	40	700	539
	900（B）	900	1,200	150	150	1,200	1,500	70	600	50	50	－	1,060	479
	1,200	1,200	1,500	150	150	1,500	1,800	80	600	50	50	－	－	652
コン ク リ ー ト 直 壁	900（A）	900	－	150	－	1,200	－	60	300	50	50	－	－	244
	900（B）	900	－	150	－	1,200	－	60	600	50	50	－	－	374
	1,200（A）	1,200	－	150	－	1,500	－	70	300	50	50	－	－	326
	1,200（B）	1,200	－	150	－	1,500	－	70	600	50	50	－	－	527
	1,500（A）	1,500	－	150	－	1,800	－	80	300	50	50	－	－	415
	1,500（B）	1,500	－	150	－	1,800	－	80	600	50	50	－	－	699
足掛金物A（FCD）		180	150	22	－	30	－	－	－	－	－	－	－	－
足掛金物B（FCD）		180	150	22	160	30	－	－	－	－	－	－	－	－

(注) 1. 本図面の単位はmmで、縮尺はフリーとする。

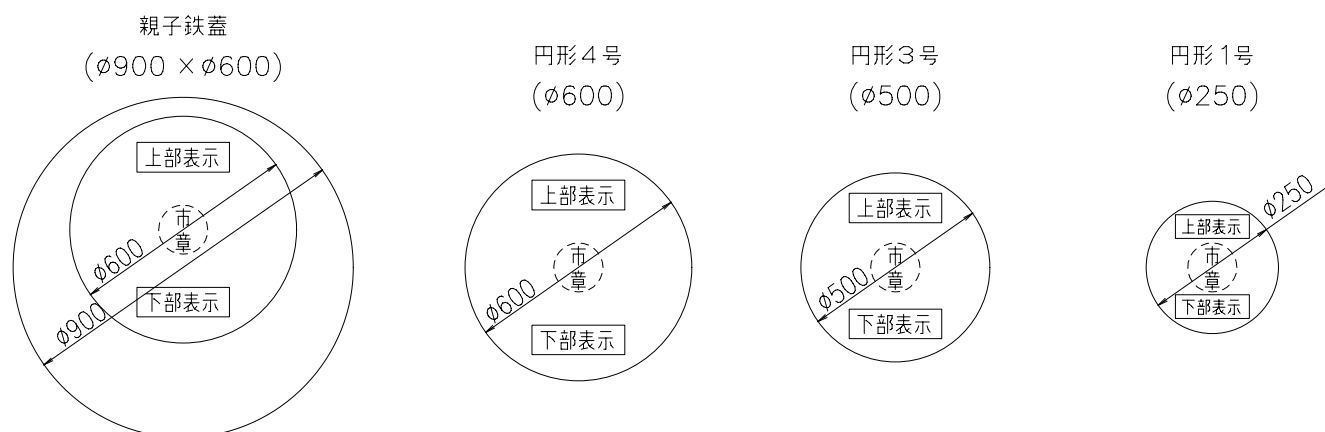
2. 足掛金物のeは根入れ長を表す。なお、メーカーによって異なる場合があるため注意すること。

3. 足掛金物は、工場製作によりコンクリート斜壁及び直壁に設置する。

鉄蓋使用基準

種 別	区 分	工 種	蓋 表 示		
			上 部	下 部	色
円形1号 ($\phi 250$)		仕切弁室（公設）	仕切弁	広島市	色なし・黄・黄白・赤
		仕切弁室（私設）	仕切弁	私 設	
円形3号 ($\phi 500$)		消火栓室	消火栓	広島市水道局	黄
		急速空気弁室（13～25）	空気弁	広島市水道局	
		水抜栓	水抜栓	広島市水道局	
		電気ハンドホール	電 気	広島市水道局	
		流量調整弁室	流量調整弁	広島市水道局	
		水位調整弁室	水位調整弁	広島市水道局	
		流量監視装置室	流量監視装置	広島市水道局	
円形4号 ($\phi 600$)		水圧監視装置室	水圧監視装置	広島市水道局	
		補修弁付双口消火栓室	消火栓	広島市水道局	黄
		空気弁付消火栓室	消火栓	広島市水道局	黄
		補修弁付空気弁付消火栓室	消火栓	広島市水道局	黄
		補修弁付急速空気弁室（25）	空気弁	広島市水道局	
		補修弁付急速空気弁室（75～150）	空気弁	広島市水道局	
		ゴムシート形バタフライ弁室（500～1000）	バタフライ弁	広島市水道局	
		電気マンホール	電 気	広島市水道局	
		立形ベアリングギヤー付仕切弁室	仕切弁	広島市水道局	
		減圧弁室	減圧弁	広島市水道局	
		緊急遮断弁室	緊急遮断弁	広島市水道局	
		流量調整弁室	流量調整弁	広島市水道局	
		水位調整弁室	水位調整弁	広島市水道局	
		流量監視装置室	流量監視装置	広島市水道局	
		水圧監視装置室	水圧監視装置	広島市水道局	
円形5号 ($\phi 900$) ※		メタルシート形バタフライ弁室	バタフライ弁	広島市水道局	
		減圧弁室（マンホール型：口径75～150）	減圧弁	広島市水道局	
		電気室	電 気	広島市水道局	
		仕切弁室	仕切弁	広島市水道局	
		安全弁室	安全弁	広島市水道局	
		空気弁室	空気弁	広島市水道局	
		流量計室	流量計	広島市水道局	
		流量調整弁室	流量調整弁	広島市水道局	
		水位調整弁室	水位調整弁	広島市水道局	
		流量監視装置室	流量監視装置	広島市水道局	
		水圧監視装置室	水圧監視装置	広島市水道局	
親子鉄蓋 ($\phi 900 \times \phi 600$) ※		ゴムシート形バタフライ弁室（700～）	バタフライ弁	広島市水道局	
		減圧弁室（マンホール型：口径75～150）	減圧弁	広島市水道局	
		空気弁室	空気弁	広島市水道局	
		流量調整弁室	流量調整弁	広島市水道局	
		水位調整弁室	水位調整弁	広島市水道局	
		流量監視装置室	流量監視装置	広島市水道局	
		水圧監視装置室	水圧監視装置	広島市水道局	

※ $\phi 900$ 鉄蓋（約130kg）の開閉について、1人での作業は困難であることから、原則として交通量の少ない場所に所属長の判断により設置すること。



- （注）1. 本図面の単位はmmで、縮尺はフリーとする。
2. 表にない名称を使用する場合は、資材等審査委員会の承認を得る必要がある。